

令和元年度

教育委員会 点検と評価

加東市教育委員会

はじめに

平成28年3月に策定した「第2期加東市教育振興基本計画」（平成28年度から令和2年度）に沿って、加東市は「学びから新しい自分づくりと地域づくりをめざす加東市に！」の実現のため積極的に取り組んでいます。

将来の教育のかたちを見据えた小中一貫教育の推進をするとともに、学校教育の分野では、確かな学力の定着、豊かな人間性の育成、健康体力づくり、不登校・いじめなどに対応する校内体制の整備など安全・安心で信頼される学校づくりを、生涯学習の分野では、青少年健全育成、成人学習の充実、芸術・文化活動の振興、文化財保護事業の推進や生涯スポーツの普及を、図書館では資料・情報提供の充実や魅力ある蔵書の整備・充実など、各分野で幼児から高齢者に至る様々な教育活動を展開してきました。

とりわけ、平成25年度からは新規・重点事業の内、特に重点的に取り組んでいく事業を、加東の教育「かとう夢プラン」と位置づけ、様々な事業を推進してきました。

東条地域小中一貫校（東条学園）については、平成29年度に基本設計を行い、平成30年度からは実施設計に取り掛かり、令和3年度4月から東条学園を開校し、同年度1月に学びの場となる新しい校舎が完成するよう事業を進めています。

平成30年度に教育振興部及びこども未来部の2部制へと改編した機構改革も2年目を終え、その機能が十分発揮できたと考えています。

これらの取組みの一つ一つが「人間力の育成」に繋がり、加東市が掲げるまちづくりにとって、重要なステップであると考えており、令和元年度も成果を挙げることが出来たと感じております。

なお、今年に入り世界的に猛威を振るっている新型コロナウイルス感染症の拡大を予防する対策として、一部の行事の中止、延期及び参加の自粛を行っています。

令和2年度は、本計画の最終年度に当たるため、集大成とすべく更なる充実を目指して参ります。

この報告書は、平成20年4月に施行された「地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律」により、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について、点検と評価を行うことが義務付けられ、併せて、議会へ評価の結果を報告し、公表しなければならないとされたことに基づくものです。

加東市教育委員会において、外部の方々の意見を聞きながら、加東の教育の点検と評価を行い、諸事業の成果と課題を明確にし、次年度への発展につなげていきたいと考えています。

ご高覧いただき、今後ともご指導、ご鞭撻賜りますようお願いいたします。

令和2年3月

加東市教育委員会

目 次

	ページ
1 教育委員会の活動及び運営状況	… 1
(1) 教育委員会委員	… 1
(2) 教育委員会の開催状況及び付議された議案等	… 1
(3) 教育委員会以外の主な活動状況	… 4
2 令和元年度 加東の教育目標	… 5
3 令和元年度主要事業の点検と評価	… 10
教育委員会の活性化	… 10
基本方針	
1. 小中一貫教育をとおして自立した子どもを育む学校教育の充実	
基本的方向	
(1) 社会的自立に向けたキャリア形成の支援	… 11
(2) グローバル化に対応した教育の推進	… 12
(3) 地域人材や地域資産等を活用した「ふるさと学習」の推進	… 13
(4) 小中一貫校開校に向けた適切な準備	… 14
2. 「生きる力」としての「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」を育む教育の推進	
(1) 確かな学力・主体的に学ぶ態度の育成	… 16
(2) 自尊感情や思いやりの心の醸成	… 19
(3) 心身の健康増進・個性の伸長	… 21
3. 子どもたちの学びや育ちを支える仕組みの確立	
(1) 学校の組織力及び教職員の資質能力の向上	… 25
(2) 安全・安心で信頼される学校づくり	… 27
(3) 子どもたちの健全な成長を見守り支える体制づくり	… 29
(4) 家庭の教育力の向上	… 31
4. 生涯学習による、だれもが生きがいをもてる社会の形成	
(1) 生涯を通じた学びの機会・場の提供	… 33
(2) 文化財保護の推進と活用	… 35
(3) 生涯スポーツの普及と振興	… 36
(4) 社会教育・体育関係施設の管理・運営	… 38
(5) 市立図書館の充実	… 39
4 評価委員所見	… 41

1 教育委員会の活動及び運営状況

(1) 教育委員会委員

区 分	氏 名	任 期
教 育 長	藤 本 謙 造	平成30年5月27日～令和 3 年5月26日
教育長職務代理者	田 中 寿 一	平成29年5月27日～令和 3 年5月26日
委 員	藤 本 洋 二	令和元年5月27日～令和 5 年5月26日
委 員	神 崎 芳 美	平成28年5月27日～令和 2 年5月26日
委 員	藤 原 哲 史	平成30年5月27日～令和 4 年5月26日

※平成30年5月27日より新教育長制度へ移行

※新教育長制度への移行に伴い、委員長職務代行者から教育長職務代理者へ名称変更

(2) 教育委員会の開催状況及び付議された議案等

開催日	番 号	案 件 名
4月23日	第1号議案	附属機関等委員の委嘱の件
	第2号議案	加東市社地域小中一貫校開校準備委員会設置要綱制定の件
	第3号議案	加東市教育支援委員会規程の一部を改正する訓令制定の件
	そ の 他	平成30年度教育委員会の点検と評価について
	そ の 他	平成31年度新規重点事業
	そ の 他	耐力度調査の結果報告について
	そ の 他	各課主要行事予定・報告、後援名義の使用許可4件
5月27日	第4号議案	附属機関等委員の委嘱の件
	第5号議案	加東市児童生徒の入学すべき学区を指定する規則の一部を改正する規則制定の件
	そ の 他	耐力度調査の結果報告について
	そ の 他	各課主要行事予定・報告、後援名義の使用許可5件
6月6日 (臨時)	第6号議案	教育財産取得の申出の件
6月27日	第7号議案	加東市加古川流域滝野歴史民俗資料館の観覧料の無料化の件
	そ の 他	各課主要行事予定・報告、後援名義の使用許可14件
7月11日 (臨時)	第8号議案	加東市教育委員会会議規則の一部を改正する規則制定の件
	第9号議案	附属機関等委員の委嘱の件
	第10号議案	加東市滝野複合施設の臨時開館の件
	そ の 他	社中学校柔剣道場耐力度調査結果に係る所見書の報告について
7月26日	第11号議案	附属機関等委員の委嘱及び解嘱の件
	第12号議案	加東市文化芸術賞賜金支給要綱制定の件
	第13号議案	令和2年度から使用する小学校教科用図書、令和2年度に使用する「特別の教科道徳」を除く中学校教科用図書及び学校教育法附則第9条第1項の規定による教科用図書の採択の件
	そ の 他	小中一貫校東条地域開校準備委員会について

	そ の 他	各課主要行事予定・報告、後援名義の使用許可8件
8月27日	第14号議案	令和2年度学校教育法附則第9条に基づく一般図書採択の件
	そ の 他	東条地域小中一貫校の100年1豪雨について
	そ の 他	発達サポートセンター移転事業について
	そ の 他	「幼児教育・保育の無償化」について
	そ の 他	各課主要行事予定・報告、後援名義の使用許可13件
9月11日 (臨時)	第15号議案	加東市文化芸術賞賜金支給要綱制定の件
9月27日	第16号議案	加東市滝野公民館の休館日の変更の件
	第17号議案	加東市滝野複合施設の臨時開館の件
	第18号議案	加東市東条公民館の臨時休館の件
	第19号議案	教育委員会事務局職員の任免の件
	そ の 他	マイナンバーカードによる図書等の貸出について
	そ の 他	東京2020オリンピック聖火リレーについて
	そ の 他	第30回日本木管コンクール(クラリネット部門)について
	そ の 他	東条地域小中一貫校について
	そ の 他	各課主要行事予定・報告、後援名義の使用許可13件
	10月29日	第20号議案
第21号議案		加東市児童生徒の入学すべき学区を指定する規則の一部を改正する規則制定の件
第22号議案		加東市東条公民館の臨時休館の件
第23号議案		教育委員会事務局職員の任命の件
そ の 他		やしろ国際学習塾 図書・情報センター施設の利用形態等について
そ の 他		東条地域小中一貫校について
そ の 他		各課主要行事予定・報告、後援名義の使用許可10件
11月26日	第24号議案	加東市滝野図書館の臨時休館及び臨時開館の件
	第25号議案	加東市教育委員会事務局職員の任命の件
	そ の 他	加東市発達サポートセンター条例制定等について
	そ の 他	東条地域小中一貫校について
	そ の 他	各課主要行事予定・報告、後援名義の使用許可7件
12月5日 (臨時)	協議事項1	加東市立小中学校学習者用タブレットパソコン購入について
	協議事項2	加東市東条文化会館条例及び加東市滝野文化会館条例の一部を改正する条例制定について
	協議事項3	加東市やしろ国際学習塾条例の一部を改正する条例制定について
	そ の 他	加東市体育団体等活動補助金交付要綱の一部改正について

12月25日	第26号議案	加東市教育委員会就学援助規則の一部を改正する規則制定の件
	第27号議案	加東市東条地域小中一貫校の開校を定める件
	第28号議案	加東市小中一貫教育基本方針の策定の件
	第29号議案	加東市滝野図書館の臨時休館及び臨時開館の件
	第30号議案	加東市滝野公民館の臨時休館の件
	第31号議案	加東市滝野複合施設の臨時休館及び臨時開館の件
	第32号議案	教育委員会事務局職員の内任の件
	その他	東京2020オリンピック聖火リレー加東市実行委員会の設立について
	その他	加東市加古川流域滝野歴史民俗資料館の臨時休館について
	その他	令和2年度新規予算要求重点事業(案)について
	その他	各課主要行事予定・報告、後援名義の使用許可7件
1月28日	協議事項4	加東市特別職の職員で非常勤のもの報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例制定について
	その他	加東市滝野文化会館規則等の一部改正について
	その他	東条地域小中一貫校について
	その他	令和2年度加東市立図書館開館・休館スケジュール(案)について
	その他	各課主要行事予定・報告、後援名義の使用許可1件
2月27日	第33号議案	加東市文化賞表彰規程の一部を改正する規程制定の件
	第34号議案	加東市社地域小中一貫校の通学の基本方針及び通学方法について
	協議事項5	令和2年度教育に関する予算案について
	その他	社地域小中一貫校について
	その他	各課主要行事予定・報告、後援名義の使用許可8件
3月26日	第35号議案	県費負担教育職員の業務の量の適切な管理に関する措置等を定める規則制定の件
	第36号議案	地方公務員法及び地方自治法の一部を改正する法律の施行に伴う関係教育委員会規則の整備に関する規則制定の件
	第37号議案	加東市教育委員会事務局決裁規程の一部を改正する訓令制定の件
	第38号議案	加東市立小学校及び中学校に配置する会計年度任用職員に関する規程制定の件
	第39号議案	加東市部活動連絡協議会設置要綱制定の件
	第40号議案	加東市加古川流域歴史民俗資料館の観覧料の無料化について
	第41号議案	教育委員会事務局職員の内任の件
	第42号議案	加東市立小学校及び中学校の学校医等の解嘱並びに委嘱の件
	第43号議案	附属機関等委員の解嘱及び委嘱の件
	その他	加東みらいこども園学校医の解嘱及び委嘱について
	その他	新型コロナウイルス感染拡大防止にかかる対応について

その他	小中一貫校について
その他	点検と評価の意見聴取会について
その他	各課主要行事予定・報告、後援名義の使用許可3件

(3) 教育委員会以外の主な活動状況

教育委員会委員は教育委員会への出席以外に次の行事等に出席しました。

- 市議会
 - ・本会議(教育長)
 - ・予算特別委員会、決算特別委員会、各常任委員会(教育長)
- 総合教育会議(第1回 7月23日 第2回 11月28日)
- 学校訪問(5月27日、5月29日、5月30日、6月11日、6月13日)
- 各種学校行事
 - ・小中学校入学式(小中学校4月9日)
 - ・小学校PTA総会4月20日 中学校PTA総会4月27日
 - ・学校オープン:5月(4校)、6月(11校)、10月(4校)、11月(12校)、
12月(3校)、1月(5校)、2月(5校)
 - ・小学校水泳交歓会(7月25日社小、滝野東小)
 - ・小学校運動会(9月21日、22日) 中学校体育祭(9月14日)
 - ・小中学校音楽会・発表会
 - ・学習発表会
 - ・学校経営研究発表会(10月18日東条東小、11月15日滝野中)
 - ・播磨東地区工科研究大会(10月24日東条西小)
 - ・小中学校卒業証書授与式(小学校3月23日、中学校3月18日)
 - ・小中学校長会(教育長)
- 各種会議及び研修会
 - ・市町組合教育委員会教育長会議(1回目)(4月12日教育長)
 - ・市町組合教育委員会教育長会議(2回目)(2月14日教育長)
 - ・兵庫県市町村教育委員会連合会常任理事会(5月17日委員)
 - ・兵庫県市町村教育委員会連合会定期総会(5月17日教育長・委員)
 - ・全県教育委員会研修会(5月17日教育長・委員)
 - ・兵庫県都市教育長協議会第1回(5月31日教育長)
 - ・ 〃 第2回(11月1日教育長)
 - ・播磨東教育長会定期総会・地区教育長会議(7月11日教育長)
 - ・播磨東地区教育委員会連合理事会・総会兼研修会(8月5日教育長・委員)
 - ・全県夏季教育委員会研修会(8月20日～21日教育長・委員)
 - ・兵庫県女性教育委員の会総会・研修会(6月28日委員)
 - ・近畿市町村教育委員会研修大会(10月11日)
 - ・播磨東教育長会・東播磨地区教育委員会連合会合同研修会(11月12日教育長・委員)
- その他行事等
 - ・加東市新成人の集い(1月13日)
 - ・各種市内イベント・大会及び研修会等

2 令和元年度 加東の教育目標

スローガン「人間力の育成」

－ 学びから新しい自分づくりと地域づくりをめざす加東市に！ －

人間は、自らの学びや他者との学び合いによって、心身共に成長するものである。人間何歳になっても、「新しいことが分かった」「できた」など自分が変わることの喜びや生きがいを感じるものであり、それが、生涯をとおして学び続ける意欲を高める。

しかし、近年、少子高齢化・グローバル化・高度情報化の進展など、教育を取り巻く環境は、大きく変化している。さらに、生活習慣の多様化や核家族化から、特に子どもたちにとっては、学校外で友達と遊ぶ機会や幅広い年齢の人々と触れ合う機会が減少している。

このような状況の中、児童生徒に対し、確かな学力の定着はもちろんのこと、豊かな情操や規範意識、他者への思いやりなどの道徳性の育成、体力や運動能力の向上など、学校教育の担う役割はますます重要となっている。

そこで、本市教育の方針である「第2期加東市教育振興基本計画(平成28年3月)」に掲げる基本理念「【人間力の育成】-学びから新しい自分づくりと地域づくりをめざす加東市に！-」を平成29年度からの本市教育のスローガンと定めた。

そして、第2期加東市教育振興基本計画の最終年度である令和2年度の計画達成にむけ、年次ごとの評価・点検を行なうための実施計画を作成し取り組むこととした。

学びをとおした市民の生きがいづくりを目指し、「人間力」の向上を図っていくことは、学びから新しい自分づくりと地域づくりを目指す加東市の実現に繋がっていくものと考ええる。

○教育委員会の活性化

教育委員会の運営

教育委員会が加東市教育の推進役を担うため、積極的に学校訪問を行い、各種研修会などに参加することにより見識を広め、教育の現況を把握し、学校、社会教育などに提言、助言を行う。

■ 主要施策

教育振興基本計画の基本理念を実現するため、5つの基本方針の基本的方向別に取り組む施策

基本方針1. 小中一貫教育をとおして自立した子どもを育む学校教育の充実

多様な教育課題や少子高齢化といった教育環境の変化に対応し、未来を担う子どもたちにより良い学びと成長を支援するすぐれた学習環境の提供のため、小中一貫教育を推進し、学校教育の一層の充実を図る。

- (1) 社会的自立に向けたキャリア形成の支援
児童生徒の発達段階に応じた体系的な体験活動を実施し、豊かな情操や社会性を育む。
- (2) グローバル化に対応した教育の推進
*小中学校での外国語活動をより充実させ、児童・生徒の英語力及び学習意欲の向上を図る。
*ICT機器を効果的に活用した授業づくりを推進し、学習課題への興味付けや思考する場の提供など授業の質の向上を図る。
- (3) 地域人材や地域資産などを活用した「ふるさと学習」の推進
ふるさと学習「かとう学」の副読本とカリキュラムの作成を進める。
- (4) 小中一貫校開校に向けた適切な準備
*小中一貫教育の推進に向け、小小連携、小中連携による児童生徒の交流活動を一層充実させる。
*義務教育9年間を通して自立した子どもを育む小中一貫教育について、学校、保護者及び地域の意見を取り入れながら、その課題を整理し、東条・社・滝野地域の順に小中一貫校の整備を進める。

基本方針2. 「生きる力」としての「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」を育む教育の推進

子どもたちが、心身共に健康で、幅広い知識と教養や豊かな情操と道徳心を身につけるため、「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」の「生きる力」をバランスよく育む教育を推進する。

- (1) 確かな学力・主体的に学ぶ態度の育成
*全国学力・学習状況調査の結果を分析し、児童・生徒の学力の実態把握に基づくきめ細かな指導の充実に努める。
*自主学習室の設置や家庭学習の手引きなどによる学習方法のポイントの提示などにより、児童・生徒が自主的に学ぶ態度を育成する。
*インクルーシブ教育システムを充実させ、一人一人の教育的ニーズを把握し、きめ細かい教育的な支援を行う。(平成29年6月から「はぴあ」オープン)
*幼・保・小連携を推進し、幼児一人一人の特性に応じた教育・保育の充実を図る。
- (2) 自尊感情や思いやりの心の醸成
学校の教育活動全体を通じて道徳教育の充実を図り、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育む。
- (3) 心身の健康増進・個性の伸長
*体力・運動能力調査の結果を分析し、系統的・計画的に児童生徒の体力・運動能力の向上を図る。
*地域や保護者・高校と連携して食育を推進し、子どもたちの望ましい食習慣の形成を図る。

*学校給食を活用した食育指導を行い、地産地消の推進、楽しみのある学校給食特別メニューの実施などによる魅力ある学校給食を行う。

*学校給食に対する理解を深めてもらうため、学校給食センター見学会、親子料理教室、給食試食会などを実施する。

基本方針3. 子どもたちの学びや育ちを支える仕組みの確立

子どもたちの成長に関わる当事者である学校・家庭・地域が、責任と役割を果たし、互いに連携・協力して子どもたちの教育に取り組む。

(1) 学校の組織力及び教職員の資質能力の向上

喫緊の教育課題について、大学教授など専門的見識を持つ講師の招聘による研修を実施し、また、授業研究や事例検討会など校内研修を一層充実させることで、教職員の資質と実践的指導力の向上を図る。

(2) 安全・安心で信頼される学校づくり

*いじめや不登校など、こころに悩みを抱えた児童・生徒の早期発見に努め、悩みの解決に向けた支援体制を整える。

*いじめ防止基本方針に基づき教職員の協働体制を充実させ、いじめの根絶を目指す。

*地域、保護者や警察など関係機関と行動連携を図り、より一層、子どもたちの安全の確保に努める。

*安全・安心で質の高い教育環境の確保のため、計画的に学校施設などの維持管理を行う。

(3) 子どもたちの健全な成長を見守り支える体制づくり

学校教育活動について、学校オープンや各種通信、HPなどを利用して積極的に保護者や地域住民への周知を図り、開かれた学校づくりを推進する。

(4) 家庭の教育力向上

地域・家庭・関係機関などとも連携して、子どもたちに製作活動や野外活動、そして地域や伝統文化などを学習・体験できる場と機会を提供するとともに、青少年の健全育成関係団体の育成・支援を行う。

基本方針4. 生涯学習による、だれもが生きがいをもてる社会の形成

生涯学習や市民スポーツなどを通じて、学習や体験をする機会を提供し、多種の生きがいを育み、そして市民が有意義で活力に満ちた人生を送れるよう支援する。

(1) 生涯を通じた学びの機会・場の提供

*各年代に応じた多種にわたる学習の場と機会を創出・提供し、生きがいを育むとともに、成人の社会教育関係団体を育成・支援を行う。

*市民が文化・芸術に触れる機会を数多く設け、市の文化振興に努めるとともに、各種の文化・芸術団体を支援する。

(2) 文化財保護の推進と活用

市内の貴重な文化財の保護と伝承・活用に努め、地域と連携して後継者の育成を図る。

(3) 生涯スポーツの普及と振興

体力・年齢に応じたスポーツの場と機会を数多く提供し、スポーツ振興や健康増進に努め、地域コミュニティー、生きがいを育むとともに、市のスポーツ振興に寄与する団体の育成・支援を行う。

(4) 社会教育・体育関係施設の管理・運営

市民が便利で快適に利用できるよう、適切な管理・運営を行う。

(5) 市立図書館の充実

*活字文化を通して、こころ豊かで自発的なまちづくりに役立つよう、市民の読書環境を整える。

*図書館の使命である貸出を中心とした資料提供の充実を図り、市民の暮らしを高めるサービスを行う。

*次世代の子どもたちが本と触れ合える機会を提供する。

基本方針5. 人権教育・啓発の推進による、共生社会と人権文化の創造

「加東市人権尊重のまちづくり基本計画」に基づき、同和問題を重要な柱に据えて、さまざまな人権にかかわる課題の解決に向けて、計画的・総合的に取り組む。

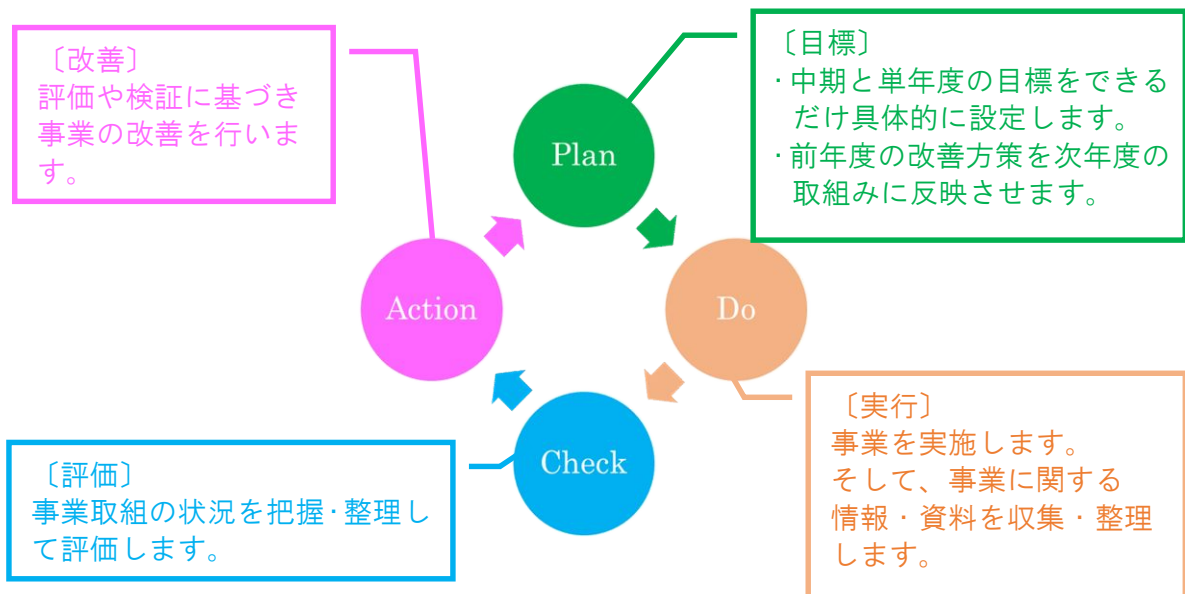
(1) 豊かな人権感覚を培う人権教育・啓発

*人権尊重の精神の芽生えが感性として育まれる幼児期に「絶対人権感覚」に関するプログラムを活用したセミナーを開催し、幼児期の人権教育事業を行う。

※平成30年度の機構改革に伴い、教育委員会に関する項目、基本方針5「(1) 豊かな人権感覚を培う人権教育・啓発」の人権教育部分については、基本方針2「(1) 確かな学力・主体的に学ぶ態度の育成」へ編入しました。また、それ以外の項目については、市長部局に移行しましたので、点検と評価からは削除しました。

■ 評価基準

平成28年3月に策定した「第2期加東市教育振興基本計画」の実施計画を作成し、基本方針の基本的方向別に評価する。



点検と評価表は、目標設定 (P l a n)、取組内容 (D o)、成果と評価 (C h e c k)、今後の課題 (A c t i o n) で整理している。

なお、令和2年度の目標値と比較し、評価基準は、次のようにアルファベットをもって評価した。

- A・・・目標以上を達成している。
- B・・・目標に向けて順調に推移している。
- C・・・順調に推移していない。
- D・・・見直しが必要。

3 令和元年度主要事業の点検と評価

教育委員会の活性化		所管課		教育総務課		
取組	教育委員会での施策提言、活発な意見交換、学校教育や社会教育の方針決定、各種行事・研修会への積極的な参加					
		2016(H28)	2017(H29)	2018(H30)	2019(R1)	2020(R2)
1	教育委員会の活性化 教育委員会での議論や学校訪問や各種研修会への参加	議論 活動	議論 活動	議論 活動	議論 活動	➡

R1

【点検と評価】


	2016(H28)	2017(H29)	2018(H30)	2019(R1)	2020(R2)
年度評価	A	A	A	A	

凡例 (→表示)	単年事業	➡	複数年事業	⇔
----------	------	---	-------	---

所管課	教育総務課							
目標設定 Plan	成果指標	単位	H27基準値	2016(H28)	2017(H29)	2018(H30)	2019(R1)	2020(R2)
	活発な議論、研修会や研究発表会、学校訪問への参加			議論 活動	議論 活動	議論 活動	議論 活動	議論 活動
活発な議論、積極的参加:評価「A」、参加や出席あり:評価「B」、参加や活動が減:評価「C」、参加や活動減が続く:評価「D」								
取組内容 Do	①教育委員会の活性化 *定例教育委員会(毎月)と臨時教育委員会を開催した。 1 *学校訪問を実施し、また研究発表会、運動会への出席、各種式典、各種研修会へ参加した。 *加東市総合教育会議に出席し、加東市教育大綱の内容について、市長と協議した。							
	関連事業	① 小学校・中学校・認定こども園等への学校園訪問						
成果と評価 Check	取組	継続課題	成果					
	①	▷小中一貫校開校に向けた取組を推進し、教育全般に関する活発な議論	▶定例教育委員会で、小中一貫教育の推進への取り組み報告、学校教育や社会教育について活発な意見交換や、議案に対し慎重に審議を行った。 ▶学校訪問の実施や各種行事への積極的な参加により学校教育・社会教育現場の現状把握を行い、また、各種研修会に参加し研修内容の報告をすることで、定例教育委員会での意見交換や提言に繋げることができた。(学校訪問、各種研修会、学校経営研究発表会、入学(園)式、卒業(園)式、成人式、オープンスクール、音楽会、スポーツ大会、文化行事等)※新型コロナウイルス感染拡大防止のため一部の行事については中止、延期及び参加の自粛を行った。 ▶加東市総合教育会議(7/23 11/28)において、加東市教育大綱における各施策の翌年度の取組内容、子どもの安全(通学路の安全)、教職員の働き方改革などについて協議を行った。					
	評価	以上の活動を行ったので、評価は「A」とする。						
今後の課題 Action	取組	課題や改善点						
	①	◇教育長のリーダーシップにより、事務局を総括し活発な議論や活動を行う。 ◇東条地域小中一貫校の令和3年度開校に向けた取組(施設整備など)を推進し、教育全般に関する案件について活発な議論を行う。						

R1

【点検と評価】

基本方針1	小中一貫教育をとおして自立した子どもを育む学校教育の充実				年度評価	2016(H28)	2017(H29)	2018(H30)	2019(R1)	2020(R2)
基本的方向(1)	社会的自立に向けたキャリア形成の支援					B	B	B	B	
所管課	学校教育課 									
目標設定 Plan	成果指標		単位	H27基準値	2016(H28)	2017(H29)	2018(H30)	2019(R1)	2020(R2)	
	将来の夢や目標を実現するために努力している児童生徒の割合(小・中)	目標値	%	56.3	57	59	61	63	65	
		実績値	%		57.2	57.8	61	62		
将来の夢や目標を実現するために努力している児童生徒の割合65%以上:評価「A」、56%以上:評価「B」、46%以上:評価「C」、46%未満:評価「D」										
取組内容 Do	<p>①体験活動をとおして職業観、勤労観を培う進路指導の充実</p> <p>1 職業観、勤労観を培うため、系統性を重視した進路学習を実施した。 2 主体的に進路選択し、決定できる能力や態度を育成するため、個に応じた進路指導を実施した。</p> <p>②家庭や地域と連携した組織的・系統的なキャリア教育の推進</p> <p>1 キャリアプランニング能力を育成するため、「キャリアノート」を活用した取組を推進した。 2 他者と協力・協同して社会に参画する態度や、自ら考え主体的に行動し、問題を解決する能力を育成するため、トライやる・ウィーク等、多様な体験活動を取り入れたキャリア教育を推進した。</p> <p>関連事業 ①② 地域に学ぶ「トライやる・ウィーク」推進事業</p>									
成果と評価 Check	取組	継続課題	成果							
	①②	▷小中連携したキャリア教育を推進するため、キャリアノートの一層の活用を図る。	▷キャリア教育の理解や推進の仕方、キャリア教育を実践していくための指導方法等に関する研修に参加し、「キャリアノート」を効果的に活用した実践を行うことができた。							
	②	▷生徒の活動の希望に沿うことができるように、トライやるウィーク新規事業所の開拓に努める。	▷地域と連携して新規事業所を4つ開拓し、71.6%の生徒が第1希望の事業所で活動した。							
	評価	将来の夢や目標を実現するために努力している児童生徒の割合が62.0%であったため、評価を「B」とする。								
今後の課題 Action	取組	課題や改善点								
	①②	◇「キャリアノート」等を活用し、小中連携したキャリア教育の充実を図る。								
		◇生徒の活動の希望に沿うことができるように、トライやるウィーク新規事業所の一層の開拓に努める。								


R1

【点検と評価】

基本方針1	小中一貫教育をとおして自立した子どもを育む学校教育の充実	年度評価	2016(H28)	2017(H29)	2018(H30)	2019(R1)	2020(R2)	
基本的方向(2)	グローバル化に対応した教育の推進		B	B	B	B		
所管課	学校教育課							
目標設定 Plan	成果指標	単位	H27基準値	2016(H28)	2017(H29)	2018(H30)	2019(R1)	2020(R2)
	英検3級相当以上の英語力を有する中学校3年生の割合	%	38.9	40	42	45	48	50
		%		39.9	43.9	47.2	46	
	英検3級相当以上の英語力を有する中学校3年生の割合が50%以上:評価「A」、39%以上:評価「B」、35%以上:評価「C」、35%未満:評価「D」							
取組内容 Do	<p>①外国人留学生や姉妹都市の学校との交流等による国際理解教育の推進</p> <p>1.2 外国人と意欲的にコミュニケーションをとろうとする態度や多文化理解の精神を育成するため、外国人留学生や姉妹都市の中高生との交流を実施した。</p> <p>②英語教育の充実</p> <p>1.2 英語に慣れ親しませ、英語によるコミュニケーション能力の育成を目指して、効果的な授業実践や指導計画、評価について研修・研究を行った。</p> <p>3.4 より実践的な英語力の向上を図るため、市独自の「かとう英語ライセンス制度」や「加東わくわく英語村」等を改善を加えて実施した。</p> <p>5 英語への興味関心を高め、英語力の向上を図るため、英検の検定料を助成した。</p> <p>③ICT機器を活用したプレゼンテーション活動の充実</p> <p>1 児童生徒の情報活用能力の育成に向け、プログラミング教育に関する研修や年間指導計画の作成を行った。</p> <p>2 正しく安全にインターネットを利用する態度や能力を育成するため、専門家を招聘し、情報モラル学習を実施した。</p> <p>3.4 ICT機器を授業で効果的に活用できるよう、研究や研修を行った。</p> <p>関連事業</p> <p>① 外国人留学生との交流 姉妹都市(オリンピア市)の学校との交流</p> <p>② かとう英語ライセンス制度 加東わくわく英語村 英検検定料助成事業 小学校外国語教育推進事業</p> <p>③ ICT教育研究推進事業 情報モラル学習</p>							
成果と評価	取組	継続課題	成果					
Check	①	▶姉妹都市の学校との交流の継続	▶姉妹都市からの留学生との交流を各中学校で行い、生徒に同年代の外国人との交流の機会を提供することができた。					
	②	▶市内及び校内の研修の充実・小中一貫した英語教育充実のための取組の推進	▶授業研究や校内研修を実施し、新学習指導要領における指導のポイントについて理解を深めることができた。研究所員会において、小中一貫英語教育カリキュラムや評価規準を作成することができた。					
	③	▶情報活用能力指標の活用	▶情報活用能力指標に基づき、小中9年間を見通した情報教育年間指導計画を作成することができた。					
	評価	英検3級相当以上の英語力を有する中学校3年生の割合が46.0%だったため、評価を「B」とする。						
今後の課題 Action	取組	課題や改善点						
	①	◇外国人留学生や姉妹都市の学校との交流を継続する。						
	②	◇小中一貫した英語教育充実のための取組を進める。かとう英語ライセンス制度の充実を図る。						
	③	◇児童生徒の情報活用能力の育成のため、情報活用能力指標を活用した取組を推進する。						

R1

【点検と評価】

基本方針1	小中一貫教育をとおして自立した子どもを育む学校教育の充実			年度評価	2016(H28)	2017(H29)	2018(H30)	2019(R1)	2020(R2)
基本的方向(3)	地域人材や地域資産等を活用した「ふるさと学習」の推進				B	B	C	B	
所管課	小中一貫教育推進室 学校教育課 								
目標設定 Plan	成果指標		単位	H27基準値	2016(H28)	2017(H29)	2018(H30)	2019(R1)	2020(R2)
	ふるさと学習「かとう学」の副読本の作成準備状況	目標値	%	なし	20	40	60	80	100
		実績値	%		20	40	55	80	
副読本作成の進捗進行率30%以上:評価「A」、20%以上:評価「B」、10%以上:評価「C」、10%未満:評価「D」									
取組内容 Do	①地域人材や地域資産を活用した、地域に学ぶ「ふるさと学習」の実施								
	<ol style="list-style-type: none"> 1 「ふるさと学習」副読本の内容を検討した。 2 地域人材や地域資産等を活用した郷土の歴史や文化等にふれる副読本を作成した。 3 ゲストティーチャーを積極的に活用した。 								
関連事業	① 小学校「加東遺産」めぐりの旅								
成果と評価 Check	取組	継続課題	成果						
	①	<ul style="list-style-type: none"> ▶「ふるさと学習」の内容の精選と編集作業の推進。 ▶学校や関係部署との連携による、ゲストティーチャーの登録の充実。 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ふるさと学習推進委員会を開催し、副読本上巻・下段の二部構成で掲載内容を検討した。教科等の担当者の意見を反映させ具体的な調整を行いながら、上巻と下巻ごとに原稿案の推敲・編集を進め、試行に向けた準備を進めた。 ▶「加東遺産」めぐり、総合的な学習の時間等において、ゲストティーチャーを招聘することで学習を深めることができた。 						
	評価	副読本の掲載内容について、教科等との調整が進み、進捗進行率が+25%であったので、評価を「B」とする。							
今後の課題 Action	取組	課題や改善点							
	①	<ul style="list-style-type: none"> ◇「ふるさと学習」の試行を経て、教職員の意見をさらに反映させながら副読本の製本に向けた編集作業を進める。 ◇学校や関係部署と連携を図り、ゲストティーチャーの登録を充実させる。 ◇副読本作成と共に、副読本の活用促進を計画する。 							

R1

【点検と評価】

基本方針1	小中一貫教育をとおして自立した子どもを育む学校教育の充実	年度評価	2016(H28)	2017(H29)	2018(H30)	2019(R1)	2020(R2)	
基本的方向(4) ①	小中一貫校開校に向けた適切な準備		B	B	B	B		
所管課	小中一貫教育推進室 学校教育課							
目標設定 Plan	成果指標 統合する小学校間や小中学校間で児童生徒の交流活動を実施した学級の割合	単位	H27基準値	2016(H28)	2017(H29)	2018(H30)	2019(R1)	2020(R2)
	目標値	%	33	38	43	48	51	55
	実績値	%		40	44	48	51	
	交流活動実施率55%以上:評価「A」、40%以上:評価「B」、33%以上:評価「C」、33%未満:評価「D」							
取組内容 Do	<p>①小中一貫校開校に向けた児童生徒の交流活動と教職員研修の計画的な実施</p> <p>1 小学校間の児童交流、小中学校間児童生徒交流の計画的な実施 *学年毎の校外学習の機会を捉えて、交流を実施した。自然学校や水泳交歓会、陸上記録会等の行事において交流機会を設けた。 *小学校児童の中学校での部活動体験や授業体験を実施した。</p> <p>2 計画的、継続的な教職員研修の実施 *9年間の教科カリキュラム作成を小中合同担当者研修会で実施した。 *道徳の研修を小中一貫の4-3-2制のステージで実施した。 *中学校区ごとにカウンセリングマインド研修を実施した。</p> <p>3 小中一貫教育カリキュラムの早期作成と試行 *義務教育9年間を見通した系統性のある教科等カリキュラム(5つ)の作成に向け検討・協議した。</p> <p>関連事業 ① 道徳教育実践研究事業</p>							
成果と評価 Check	取組	継続課題	成果					
	①	▷教職員研修の計画的な実施。 ▷体験活動を通した小中学校間交流の充実。	▶先進校の教育研究会に参加し、9年間の学びの姿を実際に参観し、研修を深めた。 ▶自然学校の同日程実施に加え、学習成果の学校間発表や校外活動の合同開催を行うことで、交流を広めた。 ▶長期休業中にSNSのルール等について児童会と生徒会が合同で協議をしたり、小学校の行事で中学校の吹奏楽部が演奏を披露したりするなど交流を深めた。 ▶5教科等(音楽、図工・美術、図工・技術・家庭、体育・保健体育、特別活動)のカリキュラムを作成した。					
	評価	交流活動実施学級は東条地域では100%となり、市内全域でも40%を超えている。順調に推移しているため、評価を「B」とする。						
今後の課題 Action	取組	課題や改善点						
	①	◇児童会生徒会活動や体験活動等を通した小中学校間の交流を継続する。 ◇作成した教科等カリキュラムの内容を、学習指導要領の改訂や教科書採択に対応するよう、継続して検討・協議する。 ◇教科カリキュラム作成等による教職員の負担軽減を図る。						

R1

【点検と評価】

基本方針1	小中一貫教育をとおして自立した子どもを育む学校教育の充実		年度評価	2016(H28)	2017(H29)	2018(H30)	2019(R1)	2020(R2)	
基本的方向(4) ②	小中一貫校開校にむけた適切な準備			B	B	B	B		
所管課	小中一貫教育推進室、学校教育課								
目標設定 Plan	成果指標		単位	H27基準値	2016(H28)	2017(H29)	2018(H30)	2019(R1)	2020(R2)
	小中一貫校開校にむけた協議状況	目標値	-	なし					R3年度開校
		実績値	回数			開校準備委員会 3	開校準備委員会 3	開校準備委員会 5	開校準備委員会 6
令和3年開校(東条):評価「A」、順調に協議や調整ができた:評価「B」、協議や調整が遅れた:評価「C」、協議や調整できない:評価「D」									
取組内容 Do	②「小中一貫校開校準備委員会」の設置、運営 1 加東市東条地域小中一貫校開校準備委員会 *開校準備委員会を開催した。*専門委員会、部会を開催した。 加東市社地域開校準備委員会 *開校準備委員会を開催した。*専門委員会を開催した。*先進校視察を実施した。 関連事業 ② 東条地域小中一貫校解体・造成工事 社地域小中一貫校基本計画								
成果と評価 Check	取組	継続課題	成果						
	②	▷開校準備委員会の運営、小中一貫校建設・開校準備、小中一貫教育に関する情報発信	▶東条地域開校準備委員会(5/29、7/25、11/21、1/17)等で、小中一貫校の校章、標準服等、開校時期について協議し、校章、標準服等を決定することができた。専門委員会(学校運営委員会7/18、8/27)、標準服等検討部会(6/19、7/11、8/20、9/30、10/23) ▶社地域開校準備委員会(5/31、2/7)等で開校準備委員会の立上げとスクールバス・設計の方針について協議し、決定することができた。専門委員会(学校運営委員会7/19、8/21、10/7、12/5、施設整備委員会10/11、10/30)先進校視察(8/28、9/3) ▶東条地域小中一貫校工事入札の不調を受け、その対応として令和元年度解体・造成工事発注、令和2年度本体工事を発注することとし、東条地域の開校時期については令和3年4月とした。 ▶広報かとうや市ホームページを使用して、情報発信を行った。						
	評価	順調に協議を進められたので、評価を「B」とする。							
今後の課題 Action	取組	課題や改善点							
	②	◇東条地域、社地域とも開校準備委員会を小中一貫校開校に向け、検討や課題を協議するために、開校スケジュールに合わせ運営する。							

R1

【点検と評価】

基本方針2	「生きる力」としての「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」を育む教育の推進	年度評価	2016(H28)	2017(H29)	2018(H30)	2019(R1)	2020(R2)
基本的方向(1)	確かな学力・主体的に学ぶ態度の育成		B	B	B	A	

所管課	学校教育課、こども教育課、発達サポートセンター							
目標設定 Plan	成果指標	単位	H27基準値	2016(H28)	2017(H29)	2018(H30)	2019(R1)	2020(R2)
	家庭など学校での授業以外で平日に1時間以上学習する児童生徒の割合(小・中)	目標値	61.9	62	66	70	70	72
		実績値		65.6	69.5	67.1	73.1	
平日の家庭学習の時間1時間以上が72%以上:評価「A」、65%以上:評価「B」、60%以上:評価「C」、60%未満:評価「D」								
取組内容 Do	①効果的な授業形態の展開							
	<ol style="list-style-type: none"> 児童生徒の学力向上に向け、授業改善を図るため、学力向上プロジェクト委員会を開催した。 基礎基本の定着を図るため、短時間(10分程度)の漢字学習や計算学習を行った。 児童生徒の学習上のつまづきを支援するために、学習チューターを配置した。 きめ細かな学習指導を行うために、少人数指導、同室複数指導を実施した。 							
	②家庭学習の習慣化							
	<ol style="list-style-type: none"> 児童生徒の自主学習を支援するため、教員免許所持者や教員志望の大学生等を指導員とした自主学習室を夏季・冬季休業期間中に設けた。 家庭学習を支援するため、「家庭学習の手引き」を活用した。 児童生徒の学習習慣を定着させるため、放課後補充学習を全小中学校で実施した。 子どもの読書活動の推進を図るため、研究推進校を指定し実践研究を行った。 							
③理数教育の充実								
<ol style="list-style-type: none"> 理数教育の充実を図るため、小学校高学年で教科担任制による指導を実施した。 理科授業の活性化を図るため、観察や実験のための教材・設備を充実させた。 児童生徒の興味関心を高めるため、スペシャリストやゲストティーチャーを招聘した特別授業を実施した。 教員の指導力向上を図るため、高等学校教員等を校内研修の講師として招聘し、観察・実験実技研修を実施した。 科学好きな中学生が集い、活躍できる場を提供するとともに、理数に対する興味・関心を高める機会とするため、「数学・理科甲子園ジュニア」への参加を促進した。 								
④特別支援教育の充実								
<ol style="list-style-type: none"> スクールアシスタントや介助員等の特別支援教育支援員を配置し、特別な支援を要する児童生徒を支援した。 就学に際して、適切な就学指導を行うため、保幼小連絡会等の場で市内学校園と十分な情報共有を行った。「できる・わかる授業」の充実を図るため、小学校1年生にひらがな単語聴写テストを行い、誤り分析結果を元に、巡回相談を実施した。一人一人の教育的ニーズにあった適切な指導を行うため、市内小中学校を対象に専門家派遣型教育相談(DELICOR)を実施した。 早期から一貫した支援を提供するため、サポートファイルや個別の指導計画などの作成及び活用を図った。 市民を対象とした発達障害等への理解促進のための市民講演会を実施した。発達障害児等への支援に必要な専門的知識、技能の習得をするため、保育教諭、教職員等に対し、サポート研修を実施した。 学校生活支援教員による通級指導を実施し、ソーシャルスキルトレーニングや教科学習の補充を行った。 個々の特性を理解し適切な支援を行うため、保健師・教育相談支援員による相談、臨床心理士による相談・発達検査、医師による診察を計画的に実施した。 								

	<p>⑤就学前教育の充実</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 社幼稚園と社こども園を統合し、「加東みらいこども園」を開園した。 2 私立認定こども園の施設整備に係る費用の助成を行った。 3 認定こども園、保育所の職員を対象に、保育教諭のスキルアップを図るための研修を実施した。(保育士等キャリアアップ研修) 4 公立認定こども園、保育所で交流保育を行い、他施設の園児とのふれあいの機会を提供した。 5 子育てに関する相談や情報の提供を行い、子育ての支援を行った。 6 多様化する保育ニーズに対応するため、延長保育、一時預かり、休日保育、病児病後児保育を実施した。 7 幼児期に「思いやり」や「いたわり」の心を育み、「違いを違いと思わない」絶対人権感覚を培うためのセミナーを開催した。 																
関連事業	<ol style="list-style-type: none"> ① 学習チューター配置事業、新学習システム推進事業、学力向上推進事業 ② 放課後における補充学習等推進事業、スタディライフ事業、子どもの読書活動推進事業 ③ サイエンス・トライやる事業 ④ インクルーシブ教育システム構築事業・保幼小発達支援連絡事業 ⑤ 保育所等運営事業、私立保育所等施設整備事業、地域子ども・子育て支援事業、幼児期人権教育事業 																
成果と評価	<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="495 624 916 639">取組</th> <th data-bbox="916 624 2038 639">継続課題</th> <th data-bbox="916 624 2038 639">成果</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="495 639 916 715">①</td> <td data-bbox="916 639 2038 715">▶児童生徒のつまずきの把握・つまずきの解消方法及び授業改善についての検討</td> <td data-bbox="916 639 2038 715">▶全国学力・学習状況調査や標準学力調査(小4算数)、タブレットドリルや問題データベース等を活用し、児童生徒のつまずきに対応した取組を充実させることができた。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="495 715 916 836">②</td> <td data-bbox="916 715 2038 836">▶家庭学習の手引きの活用 主体的に学習する習慣の定着</td> <td data-bbox="916 715 2038 836">▶各小中学校において家庭学習の手引きを活用し、家庭学習の充実を図ることができた。特に、平日に1時間以上家庭学習をする児童生徒の割合が73.1%となり、家庭学習の習慣化が進んだ。 ▶放課後補充学習や加東スタディライフを実施し、児童生徒の自主学習に対する意欲を向上させることができた。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="495 836 916 991">③</td> <td data-bbox="916 836 2038 991">▶理数学習に対して、主体的・対話的で深い学びの実現を目指すなど指導方法の工夫改善。 ▶ICT機器やデジタル教科書等の効果的活用</td> <td data-bbox="916 836 2038 991">▶小学校教員対象の観察・実験実技研修を実施することで、主体的・対話的で深い学びの視点の実現に向けた授業改善の方法について学ぶことができた。 ▶教材の共有化を推進し、電子黒板等のICT機器やデジタル教科書等を積極的に活用した。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="495 991 916 1358">④</td> <td data-bbox="916 991 2038 1358">▶インクルーシブ教育システムの充実</td> <td data-bbox="916 991 2038 1358">▶市内全ての園(16園)、小中学校(14校)、高校(1校)、の特別支援の担当者を対象に、特別支援教育コーディネーターネットワーク会議を開催し、サポートファイルの管理について周知するとともに情報交換や支援についての研修・協議を行った。加えて、小中学校に対しサポートファイル作成に関する点検を徹底したことにより、サポートファイルによる一貫した支援体制の充実につながった。 ▶専門スタッフによる、一人一人のニーズにあった適切な合理的配慮の提供ができた。 ▶保育教諭、教職員等対象の研修及び市民対象の就労関係の講演会を実施し、発達障害等に対する合理的配慮等についての理解が深まった。 ▶市内小中学校を対象に専門家派遣型教育相談(DELICORA)を、保育所等を対象に個別相談を実施したことにより、一人一人の教育的ニーズにあった適切な指導ができた。 ▶市民講演会において、発達障害等の基礎的な内容と、就労関係の内容の講演会を実施し、市民の発達障害等への理解を図った。 ▶事業の拡充等及び利用者の利便性の向上を図るため、発達サポートセンターの移転を行った。</td> </tr> </tbody> </table>	取組	継続課題	成果	①	▶児童生徒のつまずきの把握・つまずきの解消方法及び授業改善についての検討	▶全国学力・学習状況調査や標準学力調査(小4算数)、タブレットドリルや問題データベース等を活用し、児童生徒のつまずきに対応した取組を充実させることができた。	②	▶家庭学習の手引きの活用 主体的に学習する習慣の定着	▶各小中学校において家庭学習の手引きを活用し、家庭学習の充実を図ることができた。特に、平日に1時間以上家庭学習をする児童生徒の割合が73.1%となり、家庭学習の習慣化が進んだ。 ▶放課後補充学習や加東スタディライフを実施し、児童生徒の自主学習に対する意欲を向上させることができた。	③	▶理数学習に対して、主体的・対話的で深い学びの実現を目指すなど指導方法の工夫改善。 ▶ICT機器やデジタル教科書等の効果的活用	▶小学校教員対象の観察・実験実技研修を実施することで、主体的・対話的で深い学びの視点の実現に向けた授業改善の方法について学ぶことができた。 ▶教材の共有化を推進し、電子黒板等のICT機器やデジタル教科書等を積極的に活用した。	④	▶インクルーシブ教育システムの充実	▶市内全ての園(16園)、小中学校(14校)、高校(1校)、の特別支援の担当者を対象に、特別支援教育コーディネーターネットワーク会議を開催し、サポートファイルの管理について周知するとともに情報交換や支援についての研修・協議を行った。加えて、小中学校に対しサポートファイル作成に関する点検を徹底したことにより、サポートファイルによる一貫した支援体制の充実につながった。 ▶専門スタッフによる、一人一人のニーズにあった適切な合理的配慮の提供ができた。 ▶保育教諭、教職員等対象の研修及び市民対象の就労関係の講演会を実施し、発達障害等に対する合理的配慮等についての理解が深まった。 ▶市内小中学校を対象に専門家派遣型教育相談(DELICORA)を、保育所等を対象に個別相談を実施したことにより、一人一人の教育的ニーズにあった適切な指導ができた。 ▶市民講演会において、発達障害等の基礎的な内容と、就労関係の内容の講演会を実施し、市民の発達障害等への理解を図った。 ▶事業の拡充等及び利用者の利便性の向上を図るため、発達サポートセンターの移転を行った。	
取組	継続課題	成果															
①	▶児童生徒のつまずきの把握・つまずきの解消方法及び授業改善についての検討	▶全国学力・学習状況調査や標準学力調査(小4算数)、タブレットドリルや問題データベース等を活用し、児童生徒のつまずきに対応した取組を充実させることができた。															
②	▶家庭学習の手引きの活用 主体的に学習する習慣の定着	▶各小中学校において家庭学習の手引きを活用し、家庭学習の充実を図ることができた。特に、平日に1時間以上家庭学習をする児童生徒の割合が73.1%となり、家庭学習の習慣化が進んだ。 ▶放課後補充学習や加東スタディライフを実施し、児童生徒の自主学習に対する意欲を向上させることができた。															
③	▶理数学習に対して、主体的・対話的で深い学びの実現を目指すなど指導方法の工夫改善。 ▶ICT機器やデジタル教科書等の効果的活用	▶小学校教員対象の観察・実験実技研修を実施することで、主体的・対話的で深い学びの視点の実現に向けた授業改善の方法について学ぶことができた。 ▶教材の共有化を推進し、電子黒板等のICT機器やデジタル教科書等を積極的に活用した。															
④	▶インクルーシブ教育システムの充実	▶市内全ての園(16園)、小中学校(14校)、高校(1校)、の特別支援の担当者を対象に、特別支援教育コーディネーターネットワーク会議を開催し、サポートファイルの管理について周知するとともに情報交換や支援についての研修・協議を行った。加えて、小中学校に対しサポートファイル作成に関する点検を徹底したことにより、サポートファイルによる一貫した支援体制の充実につながった。 ▶専門スタッフによる、一人一人のニーズにあった適切な合理的配慮の提供ができた。 ▶保育教諭、教職員等対象の研修及び市民対象の就労関係の講演会を実施し、発達障害等に対する合理的配慮等についての理解が深まった。 ▶市内小中学校を対象に専門家派遣型教育相談(DELICORA)を、保育所等を対象に個別相談を実施したことにより、一人一人の教育的ニーズにあった適切な指導ができた。 ▶市民講演会において、発達障害等の基礎的な内容と、就労関係の内容の講演会を実施し、市民の発達障害等への理解を図った。 ▶事業の拡充等及び利用者の利便性の向上を図るため、発達サポートセンターの移転を行った。															

	⑤	▶就学前教育・保育の質の向上	▶就学前教育・保育の質の向上のため、保育教諭等を対象とした研修会を実施。(10回) ▶市内私立認定こども園の施設整備に対し、事業費の助成を行った。(3施設) ▶幼児期の発達特性を踏まえた人権教育を推進することができた。(出前親子セミナー3回) ▶幼児やその保護者と関わる機会の多い認定こども園、保育所、児童館等の職員を対象に「幼児期人権教育指導者養成セミナー」を開催した。
	評価	平日の家庭学習の時間、1時間以上の割合が73.1%により、評価「A」とする。	
今後の課題	取組	課題や改善点	
	①	◇基礎学力を向上させるため、児童生徒のつまずきを把握し、その解消方法及び授業改善について引き続き検討する必要がある。	
	②	◇主体的に学習する習慣を定着させるため、家庭学習の手引きの活用、放課後補充学習・加東スタディライフを引き続き実施する。	
	③	◇理数学習に対する子どもの関心・意欲をさらに高めるために、主体的・対話的で深い学びの実現を目指すなど指導方法の一層の工夫改善が必要である。	
Action	④	◇発達検査及び発達相談件数の増加に対応できるよう、相談事業を増加する必要がある。 ◇センターの事業等を市民に知ってもらうため、随時、多様な媒体による情報発信を行う。	
	⑤	◇幼児教育・保育の質の向上と待機児童の解消のため、保育教諭及び保育士を確保する必要がある。 ◇職員のスキルアップを図る必要がある。 ◇幼児期の教育・保育と小学校教育のより円滑な接続を図る必要がある。 ◇「指導者養成セミナー」を受講した保育教諭、保育士及び児童厚生員等の教育・保育場面での実践についてフォローする必要がある。	

R1

【点検と評価】


基本方針2	「生きる力」としての「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」を育む教育の推進	年度評価	2016(H28)	2017(H29)	2018(H30)	2019(R1)	2020(R2)
基本的方向(2)	自尊感情や思いやりの心の醸成		B	B	B	B	

所管課	学校教育課								
目標設定 Plan	成果指標		単位	H27基準値	2016(H28)	2017(H29)	2018(H30)	2019(R1)	2020(R2)
	自分にはよいところがあると思う児童生徒の割合	目標値	%	26.3	29	33	37	40	45
		実績値	%		32.8	34.8	37.6	39	
自分にはよいところがあると思う児童生徒の割合45%以上:評価「A」、27%以上:評価「B」、20%以上:評価「C」、20%未満:評価「D」									
取組内容 Do	①発達段階に応じた系統性を重視した体験活動の実施								
	1 命を大切に作る心や思いやりの心、自尊感情や規範意識を養うなど、「心の教育」の充実を図るため、児童生徒の発達段階に応じた系統性を重視した体験活動を推進した。								
	②異年齢交流や縦割り班活動の意図的・計画的な実施								
	1 異年齢交流を活発にするため、小学生と中学生と一緒に活動出来る機会を設定した。 2 異学年交流を深めるため、縦割り班活動を実施した。 3 継続的に交流し合う機会を設定するため、交流学年を決め、定期的に交流活動ができた。								
	③家庭や地域と連携した道徳教育の充実								
	1 道徳教育を家庭へ広げる一助とするため、「兵庫版道徳教育副読本」等の教材本を家庭に保管させた。 2 家庭・地域と連携した道徳教育を推進するため、授業参観、オープンスクール等での道徳の授業公開を実施した。 3 中学校での道徳科本格実施を受け、主体的、対話的な授業の実施及び記述評価の在り方について重点的に研修した。								
④豊かな人権感覚を培う人権教育の推進									
豊かな人権感覚を育むため、市内小学5・6年生及び中学生を対象に講演会を実施した。									
1 若い教員の中に、部落差別について学習を深められていない教員がいるため、経験年数15年未満の教職員を対象に部落差別に関する研修を行い、授業実践力を高めた。 2 人権教育の授業実践を積み上げ、より良い授業を行うために、加東市人権・同和教育研究協議会と連携し、人権教育の公開授業・保育及び事後検討会を行った。									
関連事業	① 環境体験事業(小3) 自然学校推進事業(小5) わくわくオーケストラ教室(中1) トライやる・ウィーク(中2)								
	② 入学体験、部活動体験、運動会・講演会での交流								
	③ 道徳の授業スキルアップ支援プログラム								
	④ 小中学校人権教育講演会、人権教育スキルアップ講座、加東市同教学校教育部会								

成果と評価		取組	継続課題	成果
Check	①		▷児童生徒の実態や地域の実情に応じた活動内容の工夫	▷学校・家庭・地域が連携し、新たな活動を実施するなど、各学校の実態に合わせた活動内容の工夫を図ることができた。
	②		▷小中学校間交流の推進	▷児童会と生徒会がそれぞれの活動を交流したり、小学校スタディライフで中学生が指導するなど、小中学校間交流を推進することができた。異年齢の班構成による遠足や班遊びなどの交流活動を実施するとともに、学習成果の発表、学習姿勢のモデル化などへ交流を広げられた。
	③		▷特別な教科道德の実施により、年間指導計画の見直しや主体的・対話的な授業に向けた研究の推進 ▷いじめ問題への対応など体系的な指導計画への改善	▷教科化に対する道德担当者会及び中学校を中心とした拠点校での研修を実施し、主に評価について研修を深めた。 ▷中学校では、道德科の全面実施をうけ、通知表の評価記入等が適切にできた。また、採択された検定教科書の活用を図るため、年間指導計画を更新した。 ▷道德の質的転換によるいじめの防止に向けての研修にも、取り組むことができた。
	④		▷さまざまな人権課題の解決に向けた人権教育の充実	▷各校において、横断的に人権教育に取り組むと共に、講演会等を通じていじめ等の人権侵害を許さない態度や行動を起こす等の実践力を育むことができた。
		評価	自分にはよいところがあると思う児童生徒の割合が39.0%であったため、評価を「B」とする。	
今後の課題		取組	課題や改善点	
Action	①		◇児童生徒の実態や地域の実情に応じた活動内容の工夫に引き続き取り組むとともに、体験活動が教科等の学習に生きて働くようにカリキュラムを見直す。	
	②		◇小中一貫教育の導入に際し、小中学校間交流をさらに進めていく必要がある。	
	③		◇特別な教科道德の実施により、主体的・対話的な授業に向けてさらなる研究が必要である。	
	④		◇あらゆる人権課題の解決に向けて、発達段階に応じた教材研究や授業実践を積み重ねていく必要がある。	

R1

【点検と評価】

基本方針2	「生きる力」としての「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」を育む教育の推進	年度評価	2016(H28)	2017(H29)	2018(H30)	2019(R1)	2020(R2)	
基本的方向(3) ①	心身の健康増進・個性の伸長		B	C	B	B		
所管課	学校教育課 							
目標設定 Plan	成果指標	単位	H27基準値	2016(H28)	2017(H29)	2018(H30)	2019(R1)	2020(R2)
	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う児童生徒の割合(小6・中3)	目標値	79.4	84	86	88	90	92
		実績値		83.2	78.4	81.5	86.7	
	児童生徒の割合92%以上:評価「A」、80%以上:評価「B」、75%以上:評価「C」、75%未満:評価「D」							
取組内容 Do	①小中学校教員の情報共有による一貫した生徒指導の充実							
	<p>学級集団の状態(児童生徒の心理面)を把握するために、市立小中学校4年生以上の全児童生徒を対象にHyper-QUテストを実施した。</p> <p>1 いじめの未然防止、早期発見・対応を行うために、いじめ調査を小中学校の全校生で実施した。</p> <p>2 不登校生の内面理解と対応について教員が共有するために対策委員会を開催し、スクールカウンセラー等と連携して細やかな関わりや粘り強い支援を行った。</p> <p>3</p> <p>4 ネットいじめや誹謗中傷等の相談に対応するため、特別監視員や関係機関と連携して支援・指導を行った。</p> <p>5 正しくインターネットが活用できるように、夏季・冬季休業日前に家庭向け啓発文書を作成・配布した。</p> <p>6 広域に及ぶ青少年のインターネット上の非行や被害を防止するため、北播磨5市1町の連絡会議を開催し、情報の共有化に取り組んだ。</p>							
	②発達段階に応じた学校行事の実施							
	<p>1 児童一人一人の個性や能力を伸ばすために、日常的な異学年交流や縦割り班活動等を実施した。</p> <p>2 児童生徒が自ら計画し、主体性をもって取り組める行事や自己を見つめたり感謝の気持ちを表したりする機会を設けた。</p>							
	③運動の習慣化と健康教育、地域と連携した食育の推進							
	<p>1 小学校では、運動に親しみ継続できるよう授業を工夫し、耐寒マラソン練習など地域の支援を得ながら取り組んだ。</p> <p>2 中学校では、生徒に運動の楽しさを実感させたり、技能の向上を図ったりするために、体育的行事や部活動等を実施した。</p> <p>3 小中学校では、児童生徒の運動能力・体力を計測して実態を把握し、より改善するための方法を模索するために、体力・運動能力テストを1学期に実施した。</p> <p>4 低年齢段階から健康への影響を認識させ、誘惑に負けない態度を培うために、喫煙・飲酒・薬物乱用防止教育を計画的に実施した。</p> <p>5 性に関する科学的知識や異性に対する正しい理解を深め、相手を大切に行動がとれるようにするために、性教育を充実させた。</p> <p>6 家庭や地域、高校等と連携して食文化への関心や理解を深めるために、学校給食を活用した食育を推進した。</p>							
	関連事業	<p>① 児童生徒の学校生活実態把握調査</p> <p>② 出前授業</p> <p>③ 部活動外部指導者派遣事業、食育推進事業</p>						
成果と評価 Check	取組	継続課題	成果					
	①	▷各校における教職員研修の充実	▶いじめの未然防止、早期発見・対応を行うために、教職員研修を開催し、教職員のいじめへの認識を高め積極的にいじめ認知を行った。					
	②	▷中学校区の小学校間の交流の推進	▶小中一貫校の開校に向け、小学校間の交流学習の機会をつくり、つながりを深めることができた。					

	③	▷給食センターと各学校及び関係機関の連携による食育の推進	▶学期に1回の和食給食等を活用し、社高校等の関係機関と連携して、和食の文化伝統に対する正しい理解を身につける機会が提供できた。
	評価	児童生徒の割合が86.7%だったため、評価を「B」とする。本来、目標値は100%であるべきであり、それを目指して取組を進める必要がある。	
今後の課題	取組	課題や改善点	
Action	①	◇いじめ認知後の初期対応から事後指導まで、適切にできるように教職員研修を実施する。また、被害児童、加害児童の指導後の教育相談を充実させる。	
	②	◇小中一貫校の開校に向けた取組を進めるために、学校オープン等で小中学校間の交流を図り、9年間を見通した行事を行う。	
	③	◇運動会等における組体操の事故防止について、事故を未然に防ぐために安全確保を最優先とした計画・指導を行う。 ◇保護者を対象に、和食の文化や望ましい食習慣について研修する機会を提供する。	

R1

【点検と評価】

基本方針2	「生きる力」としての「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」を育む教育の推進	年度評価	2016(H28)	2017(H29)	2018(H30)	2019(R1)	2020(R2)
基本的方向(3) ②	心身の健康増進・個性の伸長		C	C	C	A	

所管課	学校給食センター								
目標設定 Plan	成果指標		単位	H27基準値	2016(H28)	2017(H29)	2018(H30)	2019(R1)	2020(R2)
	地元食材の使用率	目標値	%	16.2	17	17	17	17	18
		実績値	%		14.7	14.7	15.4	22.8	

年次目標値以上:評価「A」、基準値以上:評価「B」、基準値未満:評価「C」、数値の減少が続く:評価「D」

取組内容	<p>③運動の習慣化と健康教育、地域と連携した食育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> *給食に地元産野菜を積極的に取り入れるため広報「かとう」に、市内で野菜類を栽培している生産者登録の募集を掲載した。 *地産地消を推進するため、かとう夢プラン「楽しみのある学校給食特別メニュー」(毎月1回)として、地元の果物を使用した桃ゼリーやいちごジャムを提供した。果樹部会の協力で新たにぶどうジャムとぶどうゼリーを提供した。 *地産地消を推進するため地元食材を使用した給食提供日に、地元産品の理解や郷土愛の醸成を目的として生産者を招き、学校で食育交流会を実施した。(もち麦・東条山の芋・もも・ぶどう) <p>7 *「かとうの献立」「かとうの給食」を毎月、配布すると共に給食試食会、給食センター見学会、親子料理教室等を実施した。</p> <p>*平成23年度から社高校生活科学科と連携した「学校給食研究事業」を実施し、「山田錦の酒粕カレー」の献立を考案し、提供すると共に、加東市産米「山田錦」を支える東条川疏水の食育授業を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> *給食センターと学校・関係機関が連携し、学校食育推進会議と学校食育推進委員会を2回ずつ開催し、食育をより一層推進させた。 *武庫川女子大学の協力を得て、「学校における食育の推進のための調査」を6月に実施してまとめた。その結果を2月の学校食育推進会議で報告し、今後の取組について協議した。また、各学校へ結果を配布して食育活動の充実を図った。 *食育推進指定校(福田小学校・社中学校)の研究を支援し、市内学校の食育活動の活性化を図った。 *学期に1回年3回、和食給食提供日に食育授業を行い、「食育だより」も同時に発行し、食育を推し進めた。 *社高校と連携して「かとう和食の日」に合わせた食育活動を市内全学校で取組み、和食の大切さの啓発を行った。 							
------	---	--	--	--	--	--	--	--

関連事業 ③ 給食指導訪問、給食試食会、給食センター見学会、親子料理教室、社高校生活科学科との連携、楽しみのある学校給食特別メニュー


成果と評価	取組	継続課題	成果
	Check	③ ▶地元生産者からの食材確保	<p>▶平成25年度から実施のかとう夢プラン「楽しみのある学校給食特別メニュー」(毎月1回)の提供で、加東市の学校給食の特色を出して食への興味・関心を高め、より一層魅力ある学校給食の充実を図った。</p> <p>▶地産地消として、最も生産量が多い7月に地元産玉ねぎ2.6トンを購入。冷凍加工し、衛生面や下処理に要する時間など考慮し、通年使用できるよう工夫した。</p> <p>▶地元産野菜を使用した加工食品「ももゼリー」、「滝野なすのミートグラタン」、「オリジナルコロッケ」、「いちごジャム」に加え「ぶどうゼリー」、「ぶどうジャム」を新たに給食に取り入れた。</p> <p>▶地元産野菜等を積極的に取り入れるため、「広報かとう」に市内で野菜類を栽培している生産者登録の募集を掲載したところ、地元生産者等が2者増えた。</p>

	<p>▷かとう夢プラン等の新メニューを考案</p>	<p>▷6月5日に「新元号おめでと和食給食」として、新元号をお祝いし、文化・歴史を学ぶ機会とした。社小学校の親子教室で和食給食の説明など食育授業を行い、神戸新聞に掲載されるなど、大きな評価を得た。 ▷1月24日～30日の「全国学校給食週間」には、平成30年度「わが家のおススメ和食コンテスト」に応募されたメニューから7作品を選んで給食に提供した。加東市産・兵庫県産の食材を多く取り入れ、昆布やいりこだして連続5日間和食給食を提供した。 ▷平成25年度から、かとう夢プラン「楽しみのある学校給食特別メニュー」を実施、その一環として、ももゼリー・ぶどうゼリーをオリジナルデザートとして提供しており、そのパッケージを児童生徒から募集した。ぶどうゼリーは、今年初めてで、応募数はももゼリーが127点・ぶどうゼリーは133点、審査会で選んだ優秀作品を市役所玄関ホールで展示した。 ▷地産地消の推進において、加東市産「播磨やしろ茶」、「三草茶うどん」、「もち麦」を使用した新メニューを考案した。</p>
	<p>▷学校での食育活動支援(訪問指導)</p>	<p>▷9年目を迎えた社高校生活科学科との連携事業「学校給食研究事業」では、高校生が考案した「山田錦の酒粕カレー」を実際に高校生が調理に携わって作り給食に提供した。同時に福田小学校へ社高校の生徒4人が訪問し、東条川疏水の恵みで山田錦の産地になったことや山田錦の酒粕カレーの作り方について説明した。</p>
	<p>▷食育推進事業(食育推進会議・委員会)</p>	<p>◎食育推進専門員の配置等により以下の取組で成果を得た。 ▷栄養教諭2名と食育推進専門員による学校訪問指導により、食に関する正しい知識を身につけさせ、児童生徒の心身の健全な発達につなげた。 ▷6月に「学校における食育推進の調査」を実施し、問題点や今後の課題について検討し、取組方針として位置付けた。 ▷三草小学校1年生と滝野東小学校2年生が育てた野菜を7月18日の夏野菜カレーに使用した。野菜の成長過程や収穫の喜びなど学ぶと共に、給食に活用して偏食や野菜嫌いを解消する目的とした。 ▷「かとう和食の日」に合わせて11月15日に和食給食を提供し、福田小学校で食育活動を展開した。地元産のもち麦を使用した米飯を初めて提供し、食育推進専門員が生産者と加工業者を交えて、旬の食材を使う和食の良さを説明した。大きく新聞社やテレビ局にも取り上げられPRすることができた。 ▷11月28日の「ぶどうゼリー」提供日に、鴨川小学校でぶどう生産者との食育交流会を行った。 ▷2月19日に東条山の芋を使用した豚汁を提供し、東条東小学校で東条山の芋生産者と食育交流会を行った。 ▷毎月の「かとうの給食」「かとうの献立」、学期に1回の「食育だより」の配布や給食試食会、給食センター見学会、親子料理教室を実施し、給食センター・学校・家庭の連携による食育推進が図れた。</p>
	<p>評価</p>	<p>旬の食材を一度に大量に仕入れ、加工し通年使用を可能にした。地元食材の使用率が、目標値に達したので評価を「A」とする。</p>
<p>今後の課題</p>	<p>取組</p>	<p>課題や改善点</p>
<p>Action</p>	<p>③</p>	<p>◇地産地消率を上げるには、生産者と連携し旬の野菜を多く確保し、経費を抑え保管・加工できるような取組が必要である。</p>

R1

【点検と評価】


基本方針3	子どもたちの学びや育ちを支える仕組みの確立	年度評価	2016(H28)	2017(H29)	2018(H30)	2019(R1)	2020(R2)
基本的方向(1)	学校の組織力及び教職員の資質能力の向上		B	B	B	C	

所管課	学校教育課 								
目標設定 Plan	成果指標		単位	H27基準値	2016(H28)	2017(H29)	2018(H30)	2019(R1)	2020(R2)
	授業中にICTを活用して指導することができる教員の割合	目標値	%	78	81	85	89	89	90
		実績値	%		80.1	85.3	81.8	74.9	
授業中にICTを活用して指導することができる教員の割合95%以上:評価「A」、80%以上:「評価B」、70%以上:評価「C」、70%未満:評価「D」									
取組内容 Do	①計画的・継続的な教職員研修の実施								
	1 } 今日的な教育課題に対応した実践的な指導力の向上を図るため、教職員の職務内容に応じた各種研修を実施した。 7								
	②保護者や地域住民に開かれた学校づくり								
1 } 学校の特色や地域の実態を踏まえた学校づくりのため、学校評価の公表や、学校評議員制度の活用を通して、保護者や地域住民の意向を学校運営に反映するよう努めた。 2									
③教職員の円滑な職務遂行のための職場環境の整備									
1 } セクシャル・ハラスメントやパワー・ハラスメント等のない、一人一人が意欲を持って教育活動にあたることのできる教職員相互の協力・協働の職場づくりを推進した。 2 3 } メンタルヘルスの保持増進とワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境づくりのため、勤務時間の適正化を推進した。 5									
関連事業	① 教職員夏季研修 キャリアステージ研修 Hyper-QU事例検討会 学校経営研究発表会 児童生徒の考える力を高める授業実践研修								
	② 学校評価の実施 学校評議員制度の活用								
	③ 『セクシュアル・ハラスメントのない学校に』(兵庫県教育委員会)等を活用した研修の実施 メンタルヘルスの保持増進に配慮した校内体制等の構築 校務支援システムの活用 「教職員定時退勤日」「ノー部活デー」の完全実施								

成果と評価	取組	継続課題	成果
Check	①	▷本市の教育課題や各学校の課題解決のための研修の充実	▶小中一貫教育先進校の視察や各種研究会への参加、英語教育、道徳教育等、本市の課題に対応した研修を実施した。本市の教育課題に対する教職員の意識を高め、理解を深めることができた。
	②	▷学校評価結果を踏まえた学校運営の改善	▶学校評議員会や保護者・住民アンケート結果を取り入れた学校評価を実施し、学校運営の改善に活用できた。
	③	▷教職員定時退勤日・ノー部活デーの実施	▶全ての学校において、定時退勤・ノー部活デーの実施に取り組んだ。
	評価	授業中にICTを活用して指導することができる教員の割合が74.9 %だったため、評価を「C」とする。	
今後の課題	取組	課題や改善点	
	①	◇小中一貫教育の推進、英語教育の充実、情報教育の充実等、本市の教育課題や新学習指導要領の実施に対応した研修に引き続き取り組む。特に、GIGAスクール構想の実現に向け、教員のICT活用指導力の向上を目指す。	
	②	◇保護者の意見や地域の実態を踏まえ、PDCAサイクルによる組織的・継続的な学校運営改善に努める。	
	③	◇定時退勤日やノー部活デーの完全実施に引き続き取り組む。	

R1

【点検と評価】

基本方針3	子どもたちの学びや育ちを支える仕組みの確立	年度評価	2016(H28)	2017(H29)	2018(H30)	2019(R1)	2020(R2)	
基本的方向(2) ①②	安全・安心で信頼される学校づくり		B	A	B	B		
所管課	学校教育課 							
目標設定 Plan	成果指標	単位	H27基準値	2016(H28)	2017(H29)	2018(H30)	2019(R1)	2020(R2)
	避難訓練、防災訓練、防犯訓練等の実施回数	目標値 回	47	48	48	52	53	54
		実績値 回		47	52	52	49	
避難訓練、防災訓練、防犯訓練等の実施回数 54回以上：評価「A」、47回以上：評価「B」、46回未満：評価「C」、45回未満：評価「D」 ※平成30年度から評価「A」は、54回以上に変更。								
取組内容 Do	①保護者や地域住民の参画を得た学校行事の積極的な実施 1.2 学校・家庭・地域の連携をより強化し、信頼される学校づくりを行うため、保護者や地域住民が参加できる学校行事等を実施した。 3 保護者や地域住民が学校行事に参画しやすい雰囲気づくりを行うため、学校便りやホームページ等をとおして積極的な情報発信に努めた。							
	②子どもたちが安全な環境の中で、安心して学校生活を送れる環境づくり 1.2 安全に関する教職員の知識・技能の向上を図るため、各校で安全に配慮して実施した避難訓練等の工夫や留意点について意見交換して、次年度の取組に反映させる。 3.4 子どもたちの安全を守るための取組を推進するため、学校・家庭・地域が連携し、防災訓練や引き渡し訓練等を実施した。							
	関連事業	① 運動会、体育祭、音楽会、文化祭等の学校行事 ふるさと学習、体験学習 ホームページ、学校だよりでの情報発信 ② 避難訓練、防犯訓練、防犯教室 教員研修(不審者対応等) 引き渡し訓練 学校自主防災組織合同訓練						
成果と評価 Check	取組	継続課題	成果					
	①	▶学校だよりの充実やホームページの定期的な更新	▶学校だより等を通じて、子どもたちや学校の様子をタイムリーに発信することができた。					
	②	▶防犯教室や防犯訓練の充実	▶より実践的な不審者対応訓練を実施し、教職員の防犯意識、判断力、対応力の向上が図れた。					
評価		避難訓練、防災訓練、防犯訓練等の実施回数が、49回だったため、評価「B」とする。						
今後の課題 Action	取組	課題や改善点						
	①	◇保護者や地域住民にタイムリーな情報を提供できるよう、学校だよりの充実やホームページの定期的な更新に引き続き取り組む。						
	②	◇避難訓練実施後に教職員全体で振り返った課題と共に、想定等を工夫した、より実践的な防災訓練等を実施する。						

R1

【点検と評価】

基本方針3	子どもたちの学びや育ちを支える仕組みの確立	年度評価	2016(H28)	2017(H29)	2018(H30)	2019(R1)	2020(R2)	
基本的方向(2) ③	安全・安心で信頼される学校づくり		A	A	A	C		
所管課	小中一貫教育推進室 教育総務課							
目標設定 Plan	成果指標	単位	H27基準値	2016(H28)	2017(H29)	2018(H30)	2019(R1)	2020(R2)
	安全・安心、快適な施設に向けた事業の取組み件数	目標値	-					-
		実績値	なし	3(トイレ洋式化)	4(体育館窓等)	6(CB塀改修等)	2(エアコン等)	
	単年度評価 順調に実施できた:評価「A」、実施できたが課題が残った:評価「B」、課題等により事業が遅れた:評価「C」、事業ができなかった:評価「D」							
取組内容 Do	③学校教育施設や教材等などの教育環境や就学支援の充実							
	<ol style="list-style-type: none"> *東条地域小中一貫校建設工事入札の不調を受けて建設計画の見直しを行い、今年度は先行工事として解体・造成工事を実施するとともに、来年度本体工事の再入札を行うための設計の見直しなど調整を図った。 *今年度から社地域小中一貫校整備事業に着手し、測量・鑑定・基本計画策定業務を行い、令和6年度開校に向けて準備を進めた。 *PC教室のパソコンをタブレット型に更新し、ICT教育機器の整備を行った。また、学習用タブレットパソコンを3クラスに1クラス分整備した。(330台追加整備) *安全・安心な教育環境の整備のため、小中学校のエアコン改修や普通教室の床改修などの改修工事を実施した。 *就学援助・就学奨励の補助を実施し、令和元年度入学準備金を支給した。 							
	関連事業	③ 小中学校の施設改修工事、小学校のトイレ洋式化工事、就学援助事業						
成果と評価 Check	取組	継続課題	成果					
	③	▶学校現場の実情把握と調整を図る	<ul style="list-style-type: none"> ▶東条地域小中一貫校整備事業について、建設工事の入札不調を受け、建設計画の見直しを行うことで、当初予定した校舎完成時期が遅れることとなった。義務教育学校の開校時期については、保護者等関係者との調整の結果、校舎完成前であるが東条中学校・東条東小学校を利用して令和3年4月に開校とし、校舎完成後に移転することとなった。 ▶デジタル教科書や新しい活用に対応するため、パソコン教室の教育用PCをタブレット型に更新した。(三草小学校・滝野東小学校・滝野南小学校) ▶老朽化した学校施設の整備・改修工事(社小学校・滝野東小学校普通教室床改修、滝野東小学校・滝野南小学校・滝野中学校のエアコン改修工事)、滝野東小学校ほかプールのろ過器改修を実施し、学校環境の改善ができた。 ▶児童生徒の13.8%に就学援助を実施し、就学支援ができた。 ▶令和2年度入学予定の就学援助対象者へ、入学準備金早期支給を行った。 ▶各学校園へ出向き、現場確認を行い、状況把握を行った。 					
	評価	東条地域小中一貫校建設工事の入札不調により、年度計画どおりにいかず、再調整が生じて事業が遅れたので評価は「C」とする。						
今後の課題 Action	取組	課題や改善点						
	③	<ul style="list-style-type: none"> ◇「東条地域小中一貫校整備事業」「社地域小中一貫校整備事業」ともに開校に向けた地元協議、学校施設建設など計画どおり進めていく。 ◇既存校は、施設に応じた長寿命化計画を作成し、必要な修理を実施しながら、学校間の均衡を図り、更なる学校現場の実情把握及び学校との調整を図っていく必要がある。 						

R1

【点検と評価】

基本方針3	子どもたちの学びや育ちを支える仕組みの確立	年度評価	2016(H28)	2017(H29)	2018(H30)	2019(R1)	2020(R2)
基本的方向(3)	子どもたちの健全な成長を見守り支える体制づくり		B	D	D	C	

所管課	学校教育課、こども教育課、青少年センター							
目標設定 Plan	成果指標	単位	H27基準値	2016(H28)	2017(H29)	2018(H30)	2019(R1)	2020(R2)
	各校で開催している「情報モラル研修会」に参加した保護者、地域住民の人数	人	814	900	930	930	930	1000
		実績値	人		918	744	651	863
	各校の「情報モラル研修会」に参加した割合 1000以上:評価「A」、900人以上:評価「B」、800人以上:評価「C」、800人未満:評価「D」							
取組内容 Do	<p>①学校・家庭・地域と社会教育関係機関が一体となった環境づくり</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 地域の中で豊富な経験ができるように、学校オープン等で地域の方と共に活動する機会を増やした。 2 通学路、地域のより一層の安全確保のため、「子ども見守り隊」の活動への協力を呼びかけた。 3 部活動のより専門的な技術指導の充実を図るため、部活動外部指導者を配置した。 4 インターネット上のルールやマナーの向上を図るため、各小中学校で情報モラル研修会を実施した。 <p>②子どもと子育て家庭を支える仕組みづくり</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 関係機関の情報交換を行い、連携を深めることで、事業内容の充実を図った。 2 地域全体として、子どもの成長を支える環境をつくるために、ボランティアの育成など地域人材の発掘に努めた。 3 児童虐待等の多様な課題に対応するために、スクールソーシャルワーカーを活用し、関係機関と連携した家庭支援を行った。 4 「加東みらいこども園」を開園し、3号認定子どもの受け皿の拡充を行った。 5 私立認定こども園の施設整備に対し助成を行うことで、教育・保育環境の充実を図った。 6 児童館等において、年齢ごとの親子活動を実施したほか、自主サークル等の活動を支援し、保護者の孤立化、子育ての不安感の解消に努めた。 7 関係機関との情報提供、情報交換と緊密な連携により、子育て家庭への支援を行った。 8 北播磨地区子育てフェスティバルを開催し、市外の子育て親子や子育てサークルとの交流の場を提供した。 9 子ども・子育て支援に関する目標や施策の方向性を定める「第2期加東市子ども・子育て支援事業計画」を策定した。 10 病気や病気の回復期のため、集団での保育等が困難な児童を専用施設で一時的に預かる「病児病後児保育事業」を実施し、保護者の就労と子育ての両立を支援した。 11 幼児教育の重要性を鑑み、平成29年4月から令和元年10月まで、3歳から5歳児の幼児教育費相当額を助成し、幼児教育を受ける機会を確保した。 12 育児の援助を受けたい人(依頼会員)と行いたい人(協力会員)が会員となり、アドバイザーが育児の相互援助活動を仲介する「ファミリー・サポート・センター事業」を実施した。また、会員のスキルアップのための講習会を開催した。 13 全小学校区で「放課後児童健全育成事業」を実施し、共働きなど留守家庭の小学校に就学している児童に対して、放課後等に遊びや生活の場を提供し、その健全な育成を図ることで、保護者の就労と子育ての両立を支援した。 							
	関連事業	<ol style="list-style-type: none"> ① いきいき学校応援事業、子ども見守り隊、部活動外部指導者派遣事業 ② 認定こども園の整備、地域子ども・子育て支援事業、スクールソーシャルワーカー配置事業、教育無償化保育料軽減補助事業 						

成果と評価	取組	継続課題	成果
Check	①	▶部活動外部指導者の活用	▶中学校3校で8つの部において、外部指導者を配置した。
	②	▶幼児教育・小学校教育の円滑な接続 ▶子育て家庭への適切な支援	▶地域子ども・子育て支援拠点などで、子育て家庭の交流と支援を行った。
	評価	各校の「情報モラル研修会」に参加した人数が863人だったので、評価「C」とする。	
今後の課題	取組	課題や改善点	
Action	①	◇携帯電話やスマートフォンの所持率の増加、低年齢化が進む中で、保護者の問題意識を喚起し、適切な対応がとれるよう、研修への参加率の向上と内容の充実を図る必要がある。	
	②	◇子育ての孤立化や子育ての不安感、負担感の軽減を図るための場を提供する必要がある。	

R1

【点検と評価】

基本方針3	子どもたちの学びや育ちを支える仕組みの確立	年度評価	2016(H28)	2017(H29)	2018(H30)	2019(R1)	2020(R2)
基本的方向(4)	家庭の教育力の向上		B	B	B	B	

所管課	青少年センター、学校教育課、生涯学習課、発達サポートセンター								
目標設定 Plan	成果指標		単位	H27基準値	2016(H28)	2017(H29)	2018(H30)	2019(R1)	2020(R2)
	保護者等を対象とした各種講座の回数	目標値	回	30	33	36	38	41	45
		実績値	回		32	34	35	35	
講座回数45回以上:評価「A」、講座回数30回以上:評価「B」、講座回数25回以上:評価「C」、講座回数25回未満:評価「D」									
取組内容 Do	<p>①親の学びの機会の提供、関係機関の連携による地域が家庭を見守る体制づくり</p> <ol style="list-style-type: none"> インクルーシブ教育の啓発を進めるために、保護者一般市民向けの研修会を実施した。 スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーと連携し、保護者の悩みを受け止めるために、校内教育相談体制を充実させた。 いじめ等の問題で悩む保護者等を支援するために、学校教育課、青少年センターが積極的に関わりながら相談に応じた。 <p>*青少年健全育成に資するため、「あったか加東伝の助かるた大会」、「地域子ども教室」、「新成人の集い」を実施するとともに、加東市子ども会育成連絡協議会、ボーイスカウト兵庫連盟(社第1団、加東第5団)と連携し、地域の大人が青少年を見守り育む体制を継続した。</p> <ol style="list-style-type: none"> *子どもたちが多様な体験ができる機会を提供するため、「小学生チャレンジスクール」を実施した。 *郷土の自然の良さを再認識する機会として「加東市ノーベル大賞」を実施した。 *地域の大人が連携・協働して子どもたちを育てると意識の向上を図るため、加東市連合PTAと連携し研修会を実施した。 								
	関連事業	<p>①</p> <ul style="list-style-type: none"> *不登校対策委員会、スクールソーシャルワーカー配置事業 *あったか加東伝の助かるた大会、ひょうご放課後プラン(地域子ども教室)事業、成人式事業 *青少年育成団体活動支援事業(加東市子ども会育成連絡協議会・ボーイスカウト兵庫連盟(社第1団、加東第5団)) *加東市子ども会育成連絡協議会事業:書初め大会、夏休み体験教室、ドッジボール大会、サッカー大会、オセロ大会等を開催 *小学生チャレンジスクール事業 *加東市ノーベル大賞、親子での活動や親学習の機会の充実 							

成果と評価	取組	継続課題	成果
Check	①	<p>▷保護者一般市民やアシスタント・介助員対象の研修会の充実</p> <p>▷地域や家庭との連携を通じた人間力の育成や郷土愛の醸成</p> <p>▷加東市連合PTAと協調した事業の実施と親学習・家庭教育の充実に向けた研修</p>	<p>▶保護者対象に加えて、スクールアシスタントや介助員等特別支援教育に関わる職員対象の研修を実施した。</p> <p>▶「あったか加東伝の助かるた大会」、「地域子ども教室」、「新成人の集い」を通じて、子どもたちが、友人や家族、地域の人たちとともに、加東市で生まれ育つ喜びを感じ、郷土愛を深め、地域の歴史や伝統を次世代へとつないでいくことの大切さを学ぶことができた。特に「地域子ども教室」においては、地域の大人や仲間と一緒に活動することで、人間関係や上下関係、規律、道徳心等を理解し、仲間づくり等の術を学ぶことができた。</p> <p>▶「小学生チャレンジスクール」では、様々な体験活動や学習活動を実施することで、自らの知識や技術の向上につなげることができた。</p> <p>▶19事業37教室(キャンプ等の野外活動、手芸等の製作活動、プログラミング等の体験活動、茶道や生花等の伝統文化活動など)※キャンプは台風により中止。実施は18事業36教室。</p> <p>▶「加東市ノーベル大賞」では、子どもたちが地域の身近な自然を観察することで、故郷への思いや自然・環境の大切さを学ぶことができた。</p> <p>▶加東市子ども会育成連絡協議会主催の各大会では、地域の大人と子どもの交流はもとより、家庭内の交流を充実させることができた。</p> <p>▶加東市連合PTAと連携し、研修会を実施することで、地域の大人が地域の子どもたちを連携して育てるという意識向上につながった。 講演会「あいさつの魔法 ～子どもと大人がつながる地域へ～」 講師 特定非営利活動法人 ファザーリング・ジャパン関西 マジック・パパ代表 氏</p>
	評価	講座回数が35回であったため、評価を「B」とする。	
今後の課題	取組	<p>課題や改善点</p> <p>①</p> <p>◇実施する研修会へ保護者及び一般市民の参加を増やすための取組が必要である。</p> <p>◇地域や保護者が、より一体となって子どもたちを育む環境を整えるため、「地域子ども教室」の指導員を対象に、子どもたちとの関わり方を深めるための取組が必要である。また、他部署連携による子どもの見守りも検討する必要がある。</p> <p>◇公共施設適正配置計画並びに小中一貫校開設を注視しながら、新たな「地域子ども教室」のあり方を実行委員会で深く検討する必要がある。</p> <p>◇引き続き加東市連合PTAと連携して、親学習・家庭教育が充実するよう、計画的に、かつニーズに応じた研修を実施する必要がある。</p>	

R1

【点検と評価】

基本方針4	生涯学習による、だれもが生きがいをもてる社会の形成	年度評価	2016(H28)	2017(H29)	2018(H30)	2019(R1)	2020(R2)
基本的方向(1)	生涯を通じた学びの機会・場の提供		A	A	A	A	

所管課	生涯学習課								
目標設定 Plan	成果指標		単位	H27基準値	2016(H28)	2017(H29)	2018(H30)	2019(R1)	2020(R2)
	講座等の実施内容と参加者数の増減(市主催事業通年分)	目標値	—	設定なし					
		実績値	人		10,540	11,295	11,038	11,159	—
成果指標の目標値は設定せず、実績値を比較・分析して評価する。									
取組内容 Do	①各年代に応じた学習、施策の取組								
	<p>*市民の学習機会拡大のため、高齢者大学、文学講座、加東遺産講座及び成人学習講座を継続して実施した。</p> <p>1 *青少年の心と体への健全な発展を促し、自主性、社会性や正義感・倫理観を持った豊かな人間性を育成するため、青少年健全育成事業を実施した。</p> <p>5 加東市子ども会育成連絡協議会、ボーイスカウト兵庫連盟(社第1団、加東第5団)</p> <p>4 令和元年度登録サークル数 (滝野公民館19、社公民館26、東条公民館14、さんあいセンター43、明治館5、コミュニティセンター東条会館11の計118団体)</p>								
	②社会教育関係団体の支援								
	<p>1 *加東市連合婦人会、加東市連合PTAの団体活動がより活発化するよう、自主性を重んじながら、各団体の設立趣旨も確認しつつ社会教育活動を支援した。</p>								
③芸術・文化活動の振興									
<p>*加東市の文化振興を図るため、公募美術展、文化祭、ギャラリー収蔵品展、加東文化振興財団及び新しい風かとうによる各種文化芸能事業等を実施した。</p> <p>*文化祭は、平成30年度と同様、秋のフェスティバルと同日・同会場で開催し、文化薫るイベントとして開催した。</p> <p>1 *市民がレベルの高い演奏に触れる機会を提供するため、新しい風かとうによる第30回日本木管コンクール(クラリネット部門)を東条文化会館で開催した。</p> <p>*文化芸術の振興を目的として、文化芸術部門で優秀な成績を収められた方に「文化芸術賞賜金」を贈った。</p> <p>なお、新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から「文化賞」表彰式は中止した。</p>									
④芸術・文化団体の支援									
<p>*加東市文化連盟、加東市美術協会、また各公民館やコミュニティセンターを使用される文化団体を支援し、加東市の文化芸術の向上が図れた。</p> <p>*各公民館ごとに趣向を凝らした活動発表の場を提供した。</p> <p>1 *加東市文化連盟は、「文化連盟祭」を通じて各部会の発表会を実施するとともに、地域行事への参加等を積極的に展開し、地域の文化団体として貢献した。</p> <p>なお、新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から「こども絵画公募展」は中止した。</p> <p>*加東市美術協会は、「美術協会展」や研修会の開催のほか、加東市主催の「公募美術展」を支援し、加東市と連携して地域の文化芸術振興に貢献した。</p>									
関連事業	<p>① 高齢者大学、成人学習講座、各公民館定期登録団体</p> <p>② 加東市連合婦人会・加東市連合PTAへの支援</p> <p>③ サークル活動支援・公募美術展事業、文化祭事業、ギャラリー活用事業、加東文化振興財団文化事業(委託)・新しい風かとう文化事業(委託)</p> <p>④ 芸術・文化団体の育成・活動支援(加東市文化連盟、加東市美術協会)</p>								

成果と評価		取組	継続課題	成果
Check	①		▷人を引き付ける魅力ある新たな成人向け講座の開設	▷各世代向けの講座開設や、多様なジャンルのサークルが公民館を利用することによって、学習機会を提供することができた。 ▷日程調整等を行うことで、スムーズに使用できる環境の整備に努めたほか、新たな団体発足に向けた相談等にも適切に対応するなど、市民が望む文化芸術活動の支え役としての役割を果たすことができた。
	②		▷自分のためだけでなく、人のため、地域のためといった行動がとれる団体の育成	▷加東市連合婦人会、加東市連合PTAの団体は、自らの団体の役割を十分に認識し、子育て、人権、環境問題などに係る様々な分野に参画され、各々の役割を果たすことができた。
	③		▷多数の参加者・観覧者を集める工夫	▷文化祭の開催において、公民館登録団体と秋のフェスティバル実行委員会が協力して広報活動を行い、公民館内での体験型教室を開催したことで、集客を上げることができた。
	④		▷自分たちの団体、活動だという意識を強く持って活動ができる後継者の育成	▷加東市文化連盟は、文化・芸術・芸能などの分野で、自己の研鑽や生きがいがづくり、コミュニティの増進等を目的とするサークル活動を支援し、多種・多様な市民のニーズに応えられる生涯学習の受け皿としての役割を果たすことができた。
		評価	講座や展示会などの実施内容を充実させ、多数の参加者を得ることができ、より一層各種団体との連携強化が図れたことから評価を「A」とする。	
今後の課題		取組	課題や改善点	
Action	①		◇成人向け講座が有志による自主的なサークル活動へと移行していけるよう支援しつつ、引き続き、魅力ある新たな成人向け講座を開設する必要がある。 ◇成人向け講座「インドヨガ体験教室」を初めて開催し、多くの参加があったため、これを継続し、サークル設立への流れを目指す。	
	②		◇社会教育団体の存続・活性化が難しい状況が続くなか、自分のためだけでなく、人のため、地域のためといった行動がとれる団体の育成は、社会教育上大切であることを認識し、粘り強く、継続して支援する必要がある。そのためには、各団体のリーダーを見出し、つながりを深めて後方支援を行う。	
	③		◇芸術・文化活動の振興を図るため、引き続き、イベント等において多数の参加者・観覧者を集める工夫が必要である。	
	④		◇引き続き、各種団体に対し「自分たちの団体、自分たちの活動である」という意識を持って、活動していただくよう指導するとともに、後継者の育成に努める必要がある。	


R1

【点検と評価】

基本方針4	生涯学習による、だれもが生きがいをもてる社会の形成			年度評価	2016(H28)	2017(H29)	2018(H30)	2019(R1)	2020(R2)
基本的方向(2)	文化財保護の推進と活用				A	A	A	B	
所管課	生涯学習課								
目標設定 Plan	成果指標		単位	H27基準値	2016(H28)	2017(H29)	2018(H30)	2019(R1)	2020(R2)
	資料の公開・活用の回数	目標値	—	設定なし					
		実績値	回		8	9	13	14	—
成果指標の目標値は設定せず、実績値を比較・分析して評価する。									
取組内容 Do	①文化財の保護・活用								
	<p>*市内に所在する指定文化財を保存し、後世に継承していくため、指定文化財修理補助事業、防火設備管理事業、無形民俗文化財の後継者育成事業、文化財保護活動として見学会及び講演会や出前講座とともに、その意識を高める広報・啓発活動を展開した。</p> <p>*周知の埋蔵文化財包蔵地の保護のため、開発事業に伴う試掘・立会調査、開発照会事務を実施した。</p>								
関連事業	① 文化財保護対策事業、埋蔵文化財調査事業、歴史民俗資料館管理運営事業、三草藩武家屋敷管理運営事業								
成果と評価 Check	取組	継続課題	成果						
	①	<ul style="list-style-type: none"> 埋蔵文化財の出土遺物や民俗資料館、郷土資料の利活用、展示、保管 施設の維持管理 	<ul style="list-style-type: none"> 加東市文化財企画展の開催や企画展開催期間中に、企画展に関連した講演会を実施し、加東市の文化財の魅力が発信できた。 埋蔵文化財事業では、関係法令に基づき適正に開発事業に伴う試掘・立会調査、開発照会事務等を実施した。 文化財保護対策事業では、防火設備管理事業、無形民俗文化財の後継者育成事業、文化財保護活動として講演会や出前講座とともに、その意識を高める広報と啓発活動に努めることができた。 民俗資料について、寄贈・寄託を受け加東市内に残された歴史資料の保存に寄与した。 資料館無料開放事業により、平成30年度以上の入館者数を得ることができた。 ひょうごミュージアムフェア出展により、市外の方にも加古川流域滝野歴史民俗資料館の周知を図ることができた。 加古川流域滝野歴史民俗資料館展示室空調設備修繕により、快適な環境で観覧していただくことができた。 						
	評価	文化財企画展の実施やひょうごミュージアムフェア出展により、加東市の文化財を広く周知する機会が増えたが、加古川流域滝野歴史民俗資料館、三草藩武家屋敷旧尾崎家の入館者数が伸び悩んだことにより、評価を「B」とする。							
今後の課題 Action	取組	課題や改善点							
	①	<ul style="list-style-type: none"> 文化財の適正な長期保護の観点から、恒久的な管理施設を完備し、かつ展示スペースの確保について検討する必要がある。また、保存環境に左右される文書・絵画の保存施設についても検討する必要がある。 引き続き、文化財の保護及び普及・啓発を図り、市の貴重な文化財を活用した展示会を開催し、積極的に市内外へ情報発信する必要がある。 加古川流域滝野歴史民俗資料館・三草藩武家屋敷旧尾崎家とも入館者数を増やすための活用・運営方法について検討する必要がある。 							

R1

【点検と評価】

基本方針4	生涯学習による、だれもが生きがいをもてる社会の形成				年度評価	2016(H28)	2017(H29)	2018(H30)	2019(R1)	2020(R2)
基本的方向(3)	生涯スポーツの普及と振興					B	B	B	A	
所管課	生涯学習課 									
目標設定 Plan	成果指標		単位	H27基準値	2016(H28)	2017(H29)	2018(H30)	2019(R1)	2020(R2)	
	気軽に参加できる生涯スポーツ大会数	目標値	—	設定なし						
		実績値	回		9	9	8	9	—	
成果指標の目標値は設定せず、実績値を比較・分析して評価する。										
取組内容 Do	①生涯スポーツの振興とコミュニティづくりの支援									
	<p>1 *市民の健康保持・増進、地域コミュニティの育成につなげるため、生涯スポーツ事業を実施した。</p> <p>5 「地区親善ソフトボール大会」、「地区親善バレーボール大会」、「ゲートボール大会」、「ペタンク大会」、「グラウンドゴルフ大会」、「卓球大会」、</p> <p>2 「パークゴルフ大会」、「加東伝の助マラソン大会」、「ふるさとハイキング」</p>									
	②スポーツ団体の支援									
<p>*市民の健康増進はもとより、加東市のスポーツの振興や市民のスポーツニーズの受け皿となるよう、自主的なスポーツサークル活動を支援した。</p> <p>1 *市民のスポーツ活動活性化のため加東市体育協会加盟団体に、体育施設の予約などの優遇措置を講じ、活動を支援した。 ※令和元年度：加東市体育協会加盟団体18協会（連盟）158団体、加東市スポーツ少年団8種目21団体、その他市内のスポーツサークルは72団体。（体育協会加盟団体と一部に重複あり。）</p> <p>*市民のスポーツ活動を推進するため、振興体系の中核を担っている加東市体育協会に対し、活動を支援した。</p> <p>2 *市民のスポーツ活動活性化のため加東市体育協会加盟団体18協会のうち、各協会に加入しているスポーツ団体に対し助成等の支援を行った。 *栄誉と誇りを市民共々が共有できるように、スポーツ団体及び市民アスリートに対し、活躍や成績に応じて、「スポーツ賞賜金」を贈った。 なお、新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から「スポーツ賞」表彰式は中止した。</p>										
関連事業	<p>① ふれあい球技大会（地区親善ソフトボール大会、地区親善バレーボール大会、ゲートボール大会、ペタンク大会、グラウンドゴルフ大会、卓球大会、パークゴルフ大会）、加東伝の助マラソン大会、ふるさとハイキング</p> <p>② 体育協会補助金・スポーツ賞制度・代表選手賞賜金制度・体育施設維持管理事業</p>									

成果と評価	取組	継続課題	成果
Check	①	<ul style="list-style-type: none"> ▷各事業の内容、会場等を精査、人員確保と安全対策 ▷多種のスポーツに参加できる体制が整っていることの市民への周知 ▷年間使用計画と施設利用の調整 ▷施設利用者の混乱を避けるため、加東市体育協会をはじめ、各種団体等に周知 	<ul style="list-style-type: none"> ▶各種日とも多くの市民の参加が得られ、技術の向上や地域、世代を越えたコミュニティの推進を図ることができた。 ▶各種大会の開催には、加東市体育協会(各種目協会含む)、加東市スポーツ推進員等の協力を得て、市民自らの手による市民のための大会とすることができた。 ▶「加東伝の助マラソン大会」は、参加賞として配布するTシャツやフェイスタオルに公募による伝の助オリジナルロゴマークを採用するなど、工夫を凝らすとともに参加者に親しまれる大会として定着させることができた。
	②	▷活躍するスポーツ団体及び市民アスリートへの抜けない周知	▶各スポーツ団体への支援として、施設利用の減免支援及び活動補助並びに活躍するスポーツ団体及び市民アスリートに対し、賞賜金及び表彰を授与し、功績を称えることができた。
	評価	計画のとおり各種大会を実施し、参加者の健康保持・増進、地域コミュニティの醸成を図ることができたため評価を「A」とする。	
今後の課題	取組	課題や改善点	
	①	<ul style="list-style-type: none"> ◇公共施設適正配置計画に基づき、廃止となる施設について、定期利用団体との調整等を密に行い、年間使用計画に支障が生じないよう調整を図る必要がある。また、施設利用者の混乱を避けるため、加東市体育協会をはじめ各種団体等に周知を図る必要がある。 ◇市民が気軽に生涯スポーツに取り組めるよう、また触れることができるよう各種イベントを開催するとともに、スポーツ団体・指導者の育成に努める必要がある。 ◇近年の猛暑・酷暑などによる熱中症等の対策について検討する必要がある。 	
	②	<ul style="list-style-type: none"> ◇今後においても、引き続きスポーツ団体へ支援する必要がある。 ◇活躍するスポーツ団体及び市民アスリートへ抜けなく賞賜金及び表彰制度を周知する必要がある。 	

R1

【点検と評価】

基本方針4	生涯学習による、だれもが生きがいをもてる社会の形成		年度評価	2016(H28)	2017(H29)	2018(H30)	2019(R1)	2020(R2)	
基本的方向(4)	社会教育・体育関係施設の管理・運営			A	A	A	B		
所管課	生涯学習課								
目標設定 Plan	成果指標		単位	H27基準値	2016(H28)	2017(H29)	2018(H30)	2019(R1)	2020(R2)
	安全で快適な施設の管理事業を行った件数	目標値	—	設定なし					—
		実績値	件		5	10	11	9	
成果指標の目標値は設定せず、実績値を比較・分析して評価する。									
取組内容 Do	①社会教育・体育関係施設の管理・運営								
	<p>市民に喜ばれる施設として、また気軽に活用等していただける施設となるよう、3公民館、2コミュニティ施設、3文化会館、6体育館、9グラウンド、滝野複合施設、明治館、加古川流域滝野歴史民俗資料館、三草藩武家屋敷旧尾崎家の適切な運用と効果的な維持管理に努めた。 公共施設適正配置計画に基づき、各施設について計画的に適切な維持管理・運営に努めた。 令和元年度の主な事業等 *社武道館柔道畳更新、東条グラウンド境界復元測量業務委託、東条グラウンド西駐車場農地復旧工事 *東条東体育館解体工事 *文化財修理事業(上鴨川住吉神社割拝殿) *やしろ国際学習塾の楽屋トイレ等改修工事及びホール音響設備の更新等工事、図書情報センター施設改修工事 *滝野文化会館のホール調光設備等の更新工事 *東条文化会館の外壁タイル修繕工事及びトイレ等改修工事等</p>								
関連事業	① 3公民館、2コミュニティ施設、3文化会館、6体育館、9グラウンド、滝野複合施設、明治館、加古川流域滝野歴史民俗資料館、三草藩武家屋敷維持管理事業								
成果と評価 Check	取組	継続課題	成果						
	①	各施設における快適な使用環境の提供	▶概ね施設の維持管理は、計画的に整備・改修に努め快適な使用環境を提供することができた。 ▶引き続き存続する施設については概ね適切な維持管理・運営が実施できた。						
今後の課題 Action	評価	各施設の管理については、順次整備・改修に努め、計画的に実施できたが、突発的事案の対処において時間を要した事案があることから評価を「B」とする。							
	取組	課題や改善点							
①	◇引き続き、施設の適正な維持管理に努め、施設運営における利用者の安全安心を確保する。								

R1

【点検と評価】

基本方針4	生涯学習による、だれもが生きがいをもてる社会の形成		年度評価	2016(H28)	2017(H29)	2018(H30)	2019(R1)	2020(R2)	
基本的方向(5)	市立図書館の充実			B	B	B	B		
所管課	中央図書館								
目標設定 Plan	成果指標		単位	H27基準値	2016(H28)	2017(H29)	2018(H30)	2019(R1)	2020(R2)
	図書館利用の市民登録率	目標値	%	47	48	49.0	52.0	64.0	65
		実績値	%		49.5	51.1	62.8	63.0	
市民登録率目標以上:評価「A」、順調に登録率上昇:評価「B」、登録率低下:評価「C」、登録率低迷:評価「D」									
取組内容 Do	①資料提供・情報提供の充実								
	<ol style="list-style-type: none"> 1 利用の促進を図るため、広報かとう及びインターネット、ケーブルテレビ、図書館だより(偶数月発行)により情報提供を行った。 2 図書館システムを利用し、図書や雑誌などの貸出を行うとともに、利用者の利便性を高めるため、ウェブ予約やMY本棚機能によるサービス充実に努めた。 3 児童・生徒が本に触れる機会を増やすため、学校との連携を図り、学校の要望を取り入れた団体貸出を実施した。 								
	②魅力ある蔵書の整備・充実								
	<ol style="list-style-type: none"> 1 図書館資料収集基準及び廃棄基準に基づき、市民(利用者)の要望に応えるため、蔵書の整備・充実に努めた。 2 利用者からの要望に応えるため予約資料の購入や郷土資料を収集した。 3 雑誌コーナーの充実を図るため、雑誌スポンサー制度の導入により、雑誌を充実させた。 4 多様な図書に触れてもらうため、特設展示コーナーを設置し、普段手に取りにくい図書も案内した。 								
③図書館利用の推進									
<ol style="list-style-type: none"> 1.2 児童・生徒が本に触れる機会を増やすため、おとどけ図書館及びおでかけ図書館を実施し、小中学生に本に親しむきっかけづくりを行った。 3 幼児・児童が絵本などに触れる機会を増やすため、おはなし会を3館で実施するとともに人権協働課と連携し「人権絵本の読み聞かせ」を館外でも行った。 4 親子の絆づくりには絵本が重要であることを伝えるため、健康課と連携し、4か月児健診の親子に「はじめてであう絵本」を実施した。 5 施設の有効利用をするため、図書館の会議室を学習室として活用した。 6 図書館利用の増加を図るため、読書活動推進事業として、利用者参加型の事業を展開した。 7 利用者の利便性を高めるため、図書館相互利用推進事業(加西市・西脇市・多可町の返却本の預かりサービス、リクエスト本の相互貸借)を実施した。 									
関連事業	① 図書館システムの維持管理、団体貸出								
	② 図書等の資料購入、雑誌スポンサー制度								
	③ おとどけ図書館、おでかけ図書館、おはなし会、はじめてであう絵本、読書活動推進事業、特設展示コーナー								

成果と評価	取組	継続課題	成果
Check	①	▷資料提供・情報提供の充実、市民への情報提供方法	▶図書館だより、広報かとう、インターネット等により情報提供した。
	②	▷特別展示等の開催、雑誌スポンサー制度の充実	▶毎月、各館で話題性や季節の行事などで、テーマを決めて展示を行うことにより、蔵書の活用を図った。 ▶雑誌スポンサー5者で10冊
	③	▷おとどけ図書館の選書、おでかけ図書館の対象学年拡大、おはなし会の他部署連携、読書活動推進事業の拡充	▶学校と協力し「おでかけ図書館」を市内9校で実施することで、図書館の役割について説明を行うとともに、施設の見学や「としょかんカード」により本を借りる体験を提供した。 ▶図書館カードを登録することにより、図書館利用を高めることができた。 ▶市内外の図書館相互利用により、図書館の利用促進を行った。 ▶小学生高学年による図書館員の体験や「ぬいぐるみおとまり会」など、利用者参加型の催しを工夫した。 ▶各館に図書消毒機を設置し、利用者に安心安全の読書環境を提供した。 ▶マイナンバーカードを図書館カードとして利用できるようにし、利用者の利便性を高めた。
	評価	図書館行事等の充実に努め、成果指標も昨年度より上昇していますが、今年度の目標に達していないため評価を「B」とする。	
今後の課題	取組	課題や改善点	
Action	①	◇図書館の利用について、市民に情報提供を行っていく。	
	②	◇雑誌スポンサーを増やすために効果的なPRを行う。	
	③	◇リクエスト等市民が希望する本について、購入又は他館との相互貸借により貸出を行う。 ◇学校や他部署と連携を図り、子どもに読書の輪を広げたり、市民の自己学習を支援したりする活動を展開していく。 ◇読書活動推進事業においては、市民が参加したいと思う催しを行う。	

評価委員所見

評価委員

所 見(特にコメントすべきことがあれば)	
こども園・学校教育	<p>教育における幼小連携の重要性を念頭に置いた、小中一貫教育の推進には、相応しい教育環境の整備が肝要である。そのため、教育環境を構成するハードとソフト両面の整備が年次計画に沿って進められている。</p> <p>これらのハードとソフトに関わる整備には、広範な専門領域の協働が不可欠であり、この点に関しては、「点検と評価」に証を認めることができる。</p>
社会教育	<p>生涯学習に関わる各種の取組み・事業の成果の如何は、サービスを介する市民と実施者組織との協働に依存している。このことを踏まえて、年々強く感じられることは、多様な取組み・事業の一つひとつに参加する市民個人々々を、できるだけ満足させようとする意識が強く滲んでいることである。</p> <p>しかし、そのサービス精神が市民に伝わっている証を読み取れるまでには至っていない。この点に関して気になることは、次年度への実践課題が極めて一般的でしかも抽象的な内容記載が多く、具体性に欠けることである。サービス精神の成熟(良好な成果を得る)は、具体的な次への課題の示唆につながると言われる。次年度に期待したい。</p>
教育行政	<p>「点検と評価」作成を継続してきた過程で、少なくとも組織内における“協働”が推進されていることをうかがえる。すなわち、経営、運営、管理等々の区分に留意しながら作成作業に取り組んでいる証が随所にみられる。</p> <p>「点検と評価」を機能させようとする姿勢は、引き続き一層の期待を抱かせているように感じる。</p>

総 評
<p>「基本方針」で掲げる目標達成のために、各種の取組み・事業(「基本的方向」)のねらい・課題を協調的にクリアしようとする構図は、年次計画に則った実施に際して「継続的課題」を明記し、その共有を図っていることから容易に理解できる。</p> <p>このように、市民への取組み・事業を経営・管理の視点でシステム化することによって、各種の取組み・事業のよりよい成果を期する姿勢がいよいよ明確になってきている。</p> <p>「第2期」の終末・来年度に向けて、志向するシステムをより機能させるために、取組み・事業各々の実践課題を一層具体的に掴む習慣によって課題の共有をさらに促し、その下で展開される各種の取組み・事業の成果はますます期待できる。</p>

評価委員所見

評価委員

所 見(特にコメントすべきことがあれば)	
こども園・学校教育	<p>基礎基本を重視しながら、新しい教育課題にも積極的に取り組んでいる。また、その教育効果も著しい。</p> <p>小中一貫校の開校がやや遅れているが、着実に進んでいる。一貫校のよさをさらに効果的にするため、こども園と小学校、小学校と中学校との連携に係る先導的取組の充実が望まれる。</p>
社会教育	<p>施設の適正配置等課題がある中、創意工夫した運営や事業が展開されている。今後、社会教育委員会をはじめ、各種委員会等の意見を尊重し、「学習成果の社会還元:知らせる・発表する・教える・役立つ」を活かし、より一層の「生涯学習ボランティアの育成と活用」や「自治能力を備えた市民の育成」が望まれる。また、社会教育分野では、受益者負担をもつと導入してもよいのではと思う。</p>
教育行政	<p>条件整備については、計画的に進められ充実してきている。小中一貫校の着実な推進は、条件整備の効率化に寄与すると共に、たくましい「加東っ子」の育成につながり、特色あるまちづくりにも大きく貢献することは確かである。</p>

総 評
<p>事業効果を上げている割に市民に十分伝わっていない。教育委員会全体(特に学校・社会教育現場)として、さらなるマスコミ等への情報提供と市民への発信が望まれる。それが、市民の生涯学習についての意識向上に大きく寄与する。防災無線やCATVの効果的な活用。</p> <p>事業量が年々増加してきていることを考え、厳しく事業を見直し、スクラップ&ビルドを一層進めてもらいたい。(特に社会教育分野:要求課題と必要課題の選別)</p>